

令和 3 年度 堺市立図書館サービス評価

堺市立図書館
評価：堺市立図書館協議会

令和 4 年 9 月

評価凡例

A: 非常に評価できる

B: 評価できる

C: あまり評価できない

D: 全く評価できない

目次

I 令和3年度新型コロナウイルス感染症関連対応経過	2
II 基本的な図書館活動指標	5
III 各サービスの基本方針にかかる評価	7
基本方針(1)【育む力】	8
基本方針(2)【学ぶ力】	11
基本方針(3)【創る力】	14
IV 令和3年度 各区図書館の取組み状況	17
令和3年度 堺区図書館の取組み状況	18
令和3年度 中区図書館の取組み状況	26
令和3年度 東区図書館の取組み状況	33
令和3年度 西区図書館の取組み状況	39
令和3年度 南区図書館の取組み状況	44
令和3年度 北区図書館の取組み状況	49
令和3年度 美原区図書館の取組み状況	57
V 令和3年度の総評	64

I 令和3年度新型コロナウイルス感染症関連対応経過

I 令和3年度新型コロナウイルス感染症関連対応経過

太字…堺市立図書館の動き

日付	国などの動き	本市の動き
令和3年 4月1日	【国】 大阪府への「まん延防止等重点措置」適用を決定 (4月5日～5月5日)	第21回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催
4月2日		市の決定を受け、図書館主催イベントの中止または延期を決定
4月23日	【国】 大阪を含む4都府県に緊急事態宣言発出決定(4月25日～5月11日) 【大阪府】 府有施設は原則休館、府内市町村に対し、同様の対応を協力依頼	
4月24日		第23回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催
4月25日		市の決定を受け、市立図書館・図書施設の臨時休館・休室開始(～5月11日)
5月7日	【国】 緊急事態宣言の延長を決定 (～5月31日) 【大阪府】 府有施設は原則休館を継続、府内市町村に対し、同様の対応を協力依頼	
5月10日		第24回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催
5月12日		市の決定を受け、市立図書館・図書施設の臨時休館・休室延長(～5月31日)
5月28日	【国】 緊急事態宣言の延長を決定 (～6月20日) 【大阪府】 府有施設は原則休館を継続、府内市町村に対し、同様の対応を協力依頼	
5月29日		第25回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催

I 令和3年度新型コロナウイルス感染症関連対応経過

日付	国などの動き	本市の動き
6月 1 日		市の決定を受け、市立図書館・図書施設の臨時休館・休室延長(～6月20日) 平日に限定し、市立図書館・図書施設に設置する臨時窓口において、事前申込による予約資料の貸出開始(～6月18日)※
6月17日	【国】 6月20日をもって大阪府を含む9都道府県で緊急事態宣言解除、うち7都道府県はまん延防止等重点措置への移行決定 (6月21日～7月11日)	
6月18日		第26回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催
6月21日		図書館カウンター堺東開室
6月22日		堺市内各図書館・図書室を滞在時間1時間以内を目安に開館 市の決定を受け、南図書館ホール・集会室の利用時間を20時までに短縮
7月 8 日	【国】 大阪府と首都圏3県でのまん延防止等重点措置延長決定 (7月12日～8月22日)	
7月30日	【国】 緊急事態宣言の区域変更により、大阪府も対象に決定 (8月2日～8月31日) 【大阪府】 府有施設の営業時間を20時までに決定	
7月31日		第28回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催
8月 2 日		市の決定を受け、図書館カウンター堺東の開室時間を20時までに短縮
8月17日	【国】 緊急事態宣言の延長を決定 (～9月12日)	
8月19日		第29回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催

I 令和3年度新型コロナウイルス感染症関連対応経過

日付	国などの動き	本市の動き
8月24日		市の決定を受け、南図書館ホール・集会室の臨時休室開始、堺市内各図書館・図書室の滞在時間の目安を30分以内に変更
9月9日	【国】 緊急事態宣言の延長を決定 (～9月30日)	
9月28日		第31回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催
10月1日		図書館カウンター堺東の開室時間制限を解除、南図書館ホール・集会室の利用再開
10月27日		第32回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催
11月1日		堺市内各図書館・図書室において、滞在時間の目安を撤廃

※臨時窓口設置(令和3年6月1日～6月20日)

市立図書館・図書施設に臨時窓口を設置し、平日限定で事前申込による予約資料の貸出を実施

6月1日～8日 午前10時～午後5時

* 図書館カウンター堺東は、午前9時～午後8時

6月9日～18日 中央図書館・区域館・堺市駅前分館 午前10時～午後8時

分館 午前10時～午後5時

図書館カウンター堺東 午前9時～午後8時

貸出者数:13,922人、貸出点数:44,760点

Ⅱ 基本的な図書館活動指標

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	(前年度比)
予算					
図書館費（円）	373,229,000	356,529,000	365,180,000	397,394,000	108.8%
資料費（円）	99,120,000	99,120,000	97,220,000	92,089,000	94.7%
図書購入費※1	86,400,000	86,400,000	84,500,000	80,000,000	94.7%
新聞・雑誌・追録等資料購入費	12,720,000	12,720,000	12,720,000	12,089,000	95.0%
オンラインデータベース使用料（円）	4,198,000	4,312,000	3,752,000	3,748,000	99.9%
資料収集					
蔵書数（点）※2	1,894,075	1,896,662	1,896,466	1,901,484	100.3%
受入点数（点）※2	55,338	55,768	49,946	47,169	94.4%
雑誌タイトル数（点）※2	1,315	1,314	1,290	1,224	94.9%
オンラインデータベースタイトル数	12	9	9	9	100.0%
利用サービス					
開館日数（中央図書館のみ・日）	308	285	261	260	99.6%
職員数（人）	124	125	158	163	103.2%
来館者数（施設利用者数・人）	2,223,697	2,001,220	1,382,757	1,485,121	107.4%
登録者数（人）	313,662	324,578	332,126	332,315	100.1%
個人（新規）	15,587	13,428	9,997	11,654	116.6%
うち大阪市相互利用	131	141	127	115	90.6%
うち泉北地域4市1町相互利用	232	219	174	174	100.0%
うち大阪狭山市相互利用※3	—	—	269	202	75.1%
団体（新規）	18	18	20	12	60.0%
貸出点数（点）※2	4,313,266	3,951,877	3,339,511	3,534,782	105.8%
個人貸出点数※2	4,240,402	3,886,601	3,299,102	3,496,506	106.0%
うち協力貸出点数（貸出＋借受）	14,645	12,823	12,256	12,728	103.9%
うち大阪市相互利用	17,652	12,783	14,748	16,541	112.2%
うち泉北地域4市1町相互利用	14,600	13,387	9,474	10,858	114.6%
うち大阪狭山市相互利用※3	—	—	2,957	8,170	276.3%
団体貸出点数	72,864	65,276	40,409	38,276	94.7%
予約件数（件）※2	1,108,130	1,070,527	1,001,721	1,097,971	109.6%
複写枚数（枚）	61,537	50,371	37,564	37,760	100.5%
オンラインDB利用件数（件）	32,424	49,379	50,857	44,930	88.3%
HPトップページアクセス数（件）	3,295,729	2,390,465	2,454,367	3,316,871	135.1%
蔵書検索回数（回）	3,013,824	3,230,823	2,257,961	2,402,919	106.4%
レファレンス受付件数（件）	76,278	90,051	61,394	61,929	100.9%
電子書籍閲覧回数（回）	21,972	28,368	75,587	55,728	73.7%
市民の声の受付件数（件）	32	62	40	47	117.5%
講師派遣人数（人）	30	23	25	23	92.0%
地域資料サービス					
地域資料蔵書数（点）	107,622	109,866	112,422	114,738	102.1%
地域資料レファレンス受付件数（件）	5,902	6,078	5,362	4,608	85.9%
デジタルアーカイブ点数（点）	1,037	1,172	1,377	1,703	123.7%
貴重資料の利用点数（点）	283	351	366	138	37.7%
行政資料受入点数（点）	845	154	24	624	2600.0%

Ⅱ 基本的な図書館活動指標

	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	(前年度比)
児童サービス					
児童書蔵書数（点）※2	524,307	524,201	518,606	519,747	100.2%
児童書貸出点数（点）※2	1,713,823	1,565,896	1,284,220	1,436,996	111.9%
児童のみ登録者数（点）※4	33,327	31,829	29,241	24,591	84.1%
学校園への貸出点数（点）	39,774	36,691	24,462	17,282	70.6%
図書館見学来校数（校）※5	77	76	2	2	100.0%
おはなし会・読み聞かせ会 実施回数（回）	646	591	77	220	285.7%
おはなし会・読み聞かせ会 参加人数（人）	11,527	8,737	593	1,603	270.3%
「子ども読書の日記念事業」等 学校訪問対象生徒・児童数（人）※6	1,274	3,652	1,314	121	9.2%
学校図書館訪問校数（校）	48	27	6	11	183.3%
講師派遣人数（児童書に関わる講座・ 人）	23	19	25	16	64.0%
「絵本から広がる家庭での親子ふれあい 事業」実施回数（回）	140	120	18	31	172.2%
高齢者・障害者サービス					
対面朗読室利用回数（回）※7	322	193	12	1	8.3%
大活字本蔵書冊数（点）	4,837	4,900	4,953	5,001	101.0%
一カ月貸出延貸出者数（人）	7,309	6,271	5,787	6,313	109.1%
点字図書館への貸出冊数（点）	142	116	123	65	52.8%

※1 ふるさと納税（図書館児童資料充実事業指定給付金）を含む。

※2 青少年センター及び人権ふれあいセンター・船松人権歴史館人権資料・図書室を含めた数値は以下のとおり
蔵書数：1956,545 受入点数：49,356 雑誌タイトル数：1,280 貸出点数：3,662,846 個人貸出点数：3,624,570
予約件数：1,106,970 児童書蔵書数：537,097 児童書貸出点数：1,489,222

※3 令和2年11月1日から大阪狭山市との相互利用を開始。

※4 14歳以下の登録者数。

※5 堺市内の小学3年生が、授業の一環として来館。

この他に中央（1校）、東（1園、1校）、西（2校）、南（1校）、美原（1園）にて他学年や幼稚園の図書館見学、町たんけんに対応

※6 令和元年度～2年度は学校教育部との協働により東区の小学校4項で学校図書館チーム支援事業を試行実施。

※7 新型コロナウイルス感染症対策のため、会議室等を利用した回数も含める。

（参考）令和3年度実績 政令指定都市比較

	堺市	政令市 平均	順位 (20市)	平成30年度 順位 (20市)	人口千人当たり				堺市 偏差値
					堺市	政令市 平均	順位 (20市)	平成30年度 順位 (20市)	
奉仕人口	818,569	1,384,282	14位	14位					
従事職員数※1	156	249	16位	16位	0.19	0.20	11位	11位	49
正規職員数	66	89	8位	8位	0.08	0.06	5位	4位	56
蔵書数※2	1,901,484	2,439,590	17位	17位	2,326	2,013	6位	7位	55
資料費※3	92,292	122,985	15位	14位	113	97	7位	6位	54
登録者数	332,315	336,328	11位	11位	41※4	27※4	4位	3位	59
来館者数	1,485,121	2,571,387	14位	14位	1,817	1,812	9位	8位	50
個人貸出点数	3,496,506	5,287,112	14位	13位	4,277	4,040	9位	7位	52
レファレンス受付件数	61,929	67,675	10位	11位	76	47	5位	5位	60

（※1）専任職員、非常勤、短期臨時職員、委託従事者の合計。非常勤、短期臨時職員、委託従事者は年間1500時間を一人とする

（※2）逐次刊行物を含まない

（※3）資料費については決算ベース

（※4）登録率

出典：「令和4年度 指定都市立図書館長会議 資料」

Ⅲ 各サービスの基本方針にかかる評価

「中央図書館基本指針～図書館サービス機能の向上のために～」(令和 2 年 7 月策定)において、「ひとを育み、共に学び、未来を創る力を市民とともに生み出す知の拠点」を基本理念とし、3 つのサービス基本方針と 9 つの具体的方向性を定めています。

基本方針(1)【育む力】
地域の知の拠点として、市民のくらしに寄り添い、役立つ資料・情報を提供します
サービスの具体的方向性
① 市民の読書環境の充実にさらに努めます。
② くらしに身近なテーマを図書館で調べる・相談できるようにします。
③ さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。
基本方針(2)【学ぶ力】
生涯学習の場として、さまざまな学習機会を支援します
サービスの具体的方向性
④ 子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。
⑤ 学校と連携して学びを支援します。
⑥ 青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。
基本方針(3)【創る力】
「歴史文化のまち堺」の発信と継承に貢献します
サービスの具体的方向性
⑦ 堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。
⑧ 市民交流の場を作ります。
⑨ 堺のまちづくり・地域づくりのお手伝いをします。

基本方針（１）【育む力】

地域の知の拠点として、市民のくらしに寄り添い、役立つ資料・情報を提供します

図書館は、ひとが幼いころから本に親しむ環境を整備し、豊かな心を育みます。さらに、本を読むことで知識を得たり、さまざまな資料・情報を使って調べることで、変化の激しい現代社会を生きる力を養う場でもあります。

図書館が収集し、提供する資料・情報は、市民のくらしに役立つものです。くらしの中でわからなかったり困ったりする課題について、図書館はその課題を持つ市民に寄り添い、資料・情報を活用することで解決する道のりを、具体的にわかりやすく提示します。

サービスの具体的方向性

- ① 市民の読書環境の充実にさらに努めます。
- ② くらしに身近なテーマを図書館で調べる・相談できるようにします。
- ③ さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。

定量的指標・政令市比較	堺市					前年度比
	H30	R1	R2	R3		
蔵書数	1,894,075	1,896,662	1,896,466	1,901,484	点	100%
市民千人あたり	2,285	2,295	2,295	2,326	点	101%
年間個人貸出点数	4,240,402	3,886,601	3,299,102	3,496,506	点	106%
市民千人あたり	5,115	4,703	3,992	4,277	点	107%
相互貸借借受数	6,180	4,771	5,138	5,052	点	98%
市民千人あたり	7	6	6	6	点	99%
資料費（決算ベース）	98,191	98,500	96,097	92,292	千円	96%
市民一人あたり	118	119	116	113	円	97%
レファレンス受付件数	76,278	90,051	61,394	61,929	件	101%
市民千人あたり	92.0	109.0	74.3	75.8	件	102%
図書館延床面積	18,572	18,572	18,572	19,491	m ²	-
市民千人あたり	22	22	22	24	m ²	-
中央図書館延床面積	4,635	4,635	4,635	4,635	m ²	-
市民千人あたり	5.59	5.59	5.59	5.59	m ²	-
開館日数（中央館）	308	285	261	260	日	-

Ⅲ 各サービスの基本方針にかかる評価

	指標	単位	目標値	H30	R1	R2	R3	評価 (数値)	評価	
司書の専門性	職員研修参加延人数（館外研修含む）	人	150	163	155	163	265	177%	◎	
	司書資格保有率（正規職員）	%	90	88	88	91	89	99%	○	
市民の読書環境の充実	ブックフェア開催回数	回	360	397	399	412	439	122%	◎	
広報活動	ゆづりは等の広報物発行回数		回	50	74	89	83	110	220%	◎
	広報誌掲載件数、報道提供、新聞への掲載件数	広報さかい	件	-	60	64	25	20	-	-
		区広報	件	-	84	97	63	85	-	-
		報道提供・資料提供	件	-	4	6	7	1	-	-
		新聞への掲載件数	件	-	1	6	4	1	-	-
		合計	件	150	149	173	99	107	71%	△
	チラシ等発行枚数		枚	59,700	63,246	55,815	15,507	19,994	33%	×
快適な利用空間の提供	来館者アンケート調査「館内の過ごしやすさについて」	-	4	3.89	3.94	3.91	3.96	99%	○	
利用者満足度	来館者アンケート調査「全体の満足度」	-	4.0	3.95	4.02	4.04	4.04	101%	◎	
多様な学習活動支援	図書館主催講演会等開催回数・延べ参加人数	回	80	35	22	15	13	16%	×	
	（地域資料記念講演会、堺歴史文化市民講座、課題解決支援講座、市民参加型イベント等）	人	1,300	1,985	1,466	574	704	54%	△	

◎:達成度 100%以上 ○:達成度 80%以上～100%未満 △:達成度 50%以上～80%未満 ×:達成度 50%未満

令和3年度の実績について

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者に館内滞在時間の短縮をお願いしたこともあり、ブックフェアの実施回数やブックリスト等の広報物の発行回数を増やして情報提供に努めました。
- 他部局や他の施設と連携した展示やイベント、ブックフェアを実施し、専門家の知識を活用した資料収集や情報提供を行いました。今後も市民のくらしに身近な課題をより具体的に解決できるよう、情報提供に努めていきます。
- 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館中に市立図書館・図書施設に臨時窓口を設置し、人流抑制のため平日限定で事前申込による予約資料の貸出を実施しました。申込方法は電話に加え、市の電子申請システムを利用することで、24時間受付を行いました。
- イベント情報等の広報について検討を進めています。広報さかいが10月号からリニューアルし、全市版でのイベント情報は掲載件数が限られるようになりました。広報さかい全市版に掲載できなかった情報に関しては、広報さかい各区版や図書館ホームページやtwitterでの情報提供に努めました。市のホームページにて各区版が公開されていますが、市民の利便性を考え、他区の図書館イベント情報への誘導として各区版の図書館案内に図書館ホームページのイベントページのQRコードを掲載するようにしました。さらに、より多くの市民に情報が届くよう堺市子育て応援アプリや市のSNSなどの活用を進めました。

Ⅲ 各サービスの基本方針にかかる評価

図書館協議会委員の評価
● 基本的なデータは水準を維持していると思います。ただ、学習活動支援の数値がコロナのため低いのは何か工夫すべきだったのではないのでしょうか。 ● コロナ禍の中、通常のサービスが十分でない中、ブックフェアの実施回数やブックリストなどの発行回数を増やし、情報提供している点を評価する。 ● 市民一人あたりの資料費の単価が毎年下がりつつあるが大丈夫か。資料費の増額を何とか頑張っていたきたい。 ● 令和 3 年度もコロナの影響を大きく受ける 1 年となったが、ブックフェアの実施拡大や広報物による啓発を進めた点は良かったと思う。 ● 臨時休館中に臨時窓口を設置したり、事前申込による予約資料の貸出実施も臨機応変な対応として良かった。 ● 図書館を利用していない人も含め、図書館への期待や要望、評価、利用の実態をつかむことによって、利用していない人はなぜなのかという課題も見えてくるのではないか。 ● 各区民がどこの図書館を利用しているかの集計ができるのではないか。図書館の立地条件・利便性やサービス内容など、課題が見えてくるかも知れない。 ● 堺区の中心に利用しやすい図書館がない、多くの校区で図書館が身近でないなどの課題もある。 ● 広報活動について、改善の余地があると考えます。SNS も継続して活用しながら、イベント等の報道機関への投げ込みなども積極的に実施していただきたい。 ● 司書の専門性について、雑誌などへの原稿掲載も積極的に実施していただきたい。 ● ブックフェアの実施回数やブックリスト等の広報物の発行回数を増やしたことを評価する。 ● 市の電子申請システムを利用した年代の検証が必要。 ● 精力的に広報をするなど個々の取り組みは評価します。 ● 市の電子申請システムを利用することで 24 時間受付を行った(p.9)とあるが、中図書館で実施したように各図書館や広報などで積極的にインターネット利用の予約システムの方法を伝えてその便利さを広めたら利用者拡大にもつながると思う。 ● 各図書館の間でも、本の入れ替えをして欲しい。 ● 来館者アンケートにおいて、来館者は比較的館内の過ごしやすさに満足している結果が出ており良い結果だとおもいます。広報活動はもう少し力を入れて良いようにおもいます。
委員評価 A:1名 B:8名 C:1名 D:0名

基本方針（２）【学ぶ力】

生涯学習の場として、さまざまな学習機会を支援します

図書館は、ひとがその生涯において、いつでも学びに行くことができる場所です。子どものころから図書館に親しみ、ライフステージに応じて図書館を使いこなしていくことで、豊かな学びを持続することができます。また、インターネットなどを通じて、いつでも・だれでも・どこからでも情報にアクセスできるようにすることで、さまざまな学習機会を支援していきます。

サービスの具体的方向性

- ④ 子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。
- ⑤ 学校と連携して学びを支援します。
- ⑥ 青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。

定量的指標・政令市比較	堺市					前年度比
	H30	R1	R2	R3		
団体貸出点数	72,864	65,276	40,409	38,276	点	95%
市民千人あたり	88	79	49	47	点	95%
児童書蔵書数	524,307	524,201	518,606	519,747	点	100%
市民千人あたり	632	634	634	636	点	100%
児童書個人貸出点数	1,647,370	1,505,410	1,246,563	1,401,398	点	112%
市民千人あたり	1,987	1,821	1,525	1,714	点	112%

Webでの貸出等

	H30	R1	R2	R3		前年度比
貸出期限延長点数	361,783	353,108	316,943	363,671	点	115%
市民千人あたり	436	427	383	445	点	116%
予約点数	829,923	823,045	809,850	907,818	点	112%
市民千人あたり	1,001	996	980	1,111	点	113%
電子書籍貸出者数	4,956	7,023	13,898	9,962	人	72%
市民千人あたり	6	8	17	12	人	72%
電子書籍貸出点数	9,297	12,992	30,167	21,183	点	70%
市民千人あたり	11	16	37	26	点	71%
電子書籍閲覧点数	21,972	31,880	75,587	55,728	点	74%
市民千人あたり	27	39	91	68	点	75%
電子書籍予約点数	1,526	2,348	8,408	4,058	点	48%
市民千人あたり	2	3	10	5	点	49%

Ⅲ 各サービスの基本方針にかかる評価

	指標	単位	目標値	H30	R1	R2	R3	評価 (数値)	評価
区域の読書活動推進	子どもを対象とした図書館主催事業実施回数・延べ参加人数（おはなし大会、子ども司書講座、児童を対象とした各種講座・堺市図書館まつり等の事業）	回	100	106	94	20	36	36%	×
	※おはなし会等定例行事は「基本的な図書館活動指標」に記載	人	4,700	5,550	4,900	700	802	17%	×
乳幼児とその保護者への啓発	「保護者向け講座」平均参加率	%	80	60	88	0 ^{※1}	93	116%	◎
ICTを活用した情報の提供	「本の紹介・ブックリスト」ページ閲覧回数	回	127,400	185,960	163,656	269,844	223,517	175%	◎
	新着図書お知らせメール送信点数	点	230,000	244,810	264,803	264,008	275,550	120%	◎
区域の読書活動推進 市民の生涯学習の場の提供	子どもの読書に関わる「ボランティア養成講座」延べ参加人数	人	200	195	236	0 ^{※1}	99	50%	×

※1 新型コロナウイルス感染症の影響により開催できず。

◎: 達成度 100%以上 ○: 達成度 80%以上～100%未満 △: 達成度 50%以上～80%未満 ×: 達成度 50%未満

令和3年度の取組みについて

- 新型コロナウイルス感染症の影響によりおはなし会・読み聞かせ会を中止をしていた間、代替手段としてブックフェアやブックパックの貸出を実施しました。11月以降、人数や回数を制限しながら徐々に再開しており、今後感染状況に応じた実施方法を検討していきます。
- 1月の堺市のホームページリニューアルに合わせ、図書館のホームページも一新しました。以前のトップページは上下に長い構造になっていましたが、掲載情報を整理。スマホページも文字情報の羅列になってしまっていたレイアウトを大幅に見直し、必要な情報がどこに掲載されているのか探しやすくなりました。現在イベント情報ページの見直しを行っており、利用者がより情報を入手しやすくなるよう検討を進めています。
- 学校教育部と連携し、学校図書館の訪問や選書支援、学校図書館職員の研修への資料提供を行い、学校図書館運営の手引きの改訂作業に参加するなど、学校図書館運営を支援する活動を継続実施。新型コロナウイルス感染症の影響で中止されていた学校図書館職員の事務連絡会も再開され、新刊情報の提供や情報交換など交流を深めました。
- 中央図書館のティーンズコーナーの設置や北図書館の子育て世代に向けた情報発信、美原図書館のシニアを対象としたWeb予約や電子図書館の利用促進など、各図書館で対象を絞った利用促進を図っています。各図書館の特性や利用状況を踏まえ、地域の実情に沿った図書館運営を進めていきます。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で電子書籍の利用が令和2年度に急増しました。令和3年度は前年度に比べると減少しましたが、令和元年度以前に比べると増加しており、一定程度定着したことがうかがえます。しかしながら、利用者アンケートによると電子書籍の未利用者が半数を超えており、その主な理由が存在を知らなかったということから、館内での案内も含め、さらなる広報活動に努めてまいります。

Ⅲ 各サービスの基本方針にかかる評価

図書館協議会委員の評価
● 「区域の読書活動推進」が低調であること。学習活動支援と同じく、コロナの故か。 ● ティーンズコーナーの設置だけではなく、中高生と読書を結びつけるような活動やサービスなどの取組が求められるのではないかと。次年度に期待したい。 ● 近年、他の公共図書館では、Youtube 配信（期間限定ではなく）を実施している事例がある。場としての提供ではないが、様々な環境を提供していくことが求められるのではないかと。 ● 学校と連携して、学校図書館への訪問や選書支援、学校図書館職員への資料提供などに取り組んでいただき感謝しています。 ● 区に1つでは身近な地域館の整備とは言えません。せめて中学校区に1館なければ乳幼児期～高齢期までの生涯学習を保障するのは難しいでしょう。現状でたいへんな努力がされていると思います。 ● 生涯学習は、個人の生涯の様々なステージでの学びという意味が大きいと思われます。しかし、個人の趣味や教養・生きがいでなく、まちづくりに主体的に参加し自治の力を高めるという見通しをもった支援が必要だと思います。ユネスコ公立図書館宣言で、ゆたかな情報を得た市民が民主的権利を行使して社会で積極的な役割を果たすと言っていることを確認したいと思います。 ● 学校図書館の充実が必要です。司書が配置されたとは言え、2校かけもちで週2日 4.5 時間ずつの勤務で、別の2日は図書館サポーターで開館という実態です。司書がいない日は閉館という場合もあるようです。堺市の学校図書館の蔵書管理システム整備を含め、堺市立図書館として支援・連携を強めていただきたい。 ● 電子書籍サービスの利用が前年度よりは減少したものの、コロナ禍以前と比較してよく利用された。堺市の図書館が全国に先駆けて電子書籍サービスに取り組んできた成果とも言える。今後もサービスの周知に力を入れてほしい。 ● ④の「環境」はソフト的な取り組みに限らないはずなので、ハード的な取り組み(子どもたちの居場所のような取り組み)を期待する。 ● 夏休みの時期には、自由研究や読書感想文のコーナーはあるが、実際に家では少し難しい実験等のイベントをして欲しかった。 ● 電子書籍の未利用者が半数を超えており、広報活動の再考も必要。 ● コロナ禍において貸出点数など前年度比とほぼ横ばいであり一定の評価はできるかとおもいます。電子書籍についての閲覧数並びに貸出点数が減少している具体的な理由は何か。存在を知らなかっただけではという感じがします。
委員評価 A:2名 B:7名 C:1名 D:0名

Ⅲ 各サービスの基本方針にかかる評価

基本方針（３）【創る力】

「歴史文化のまち堺」の発信と継承に貢献します

図書館には、その地域の歴史・文化を伝える資料を残していく役割があります。市民が、堺の歴史文化を学び、世界に向けて発信していけるよう、資料を保存し、活用・発信の手法を整えます。

これからの図書館は、図書館の資料・情報を活用し学習した市民が、その成果を活かしたさまざまな活動、交流を図書館で行えるよう、支援していくことが求められます。

市民が自発的に活動、交流するために、図書館は必要な情報と環境を用意します。テーマに応じて専門家や専門機関、市の関連部局等とも連携し、市民とのマッチングを行うなど、市民交流の場をコーディネートします。

堺の歴史文化を次代に継承して活かしていくうえでも、多様な世代が交流する場を設けることで地域の記憶の継承に繋がります。

そして、資料・情報の活用をもとに、多様な人々が出会い、交流し協働することから新しい価値を生み出す場を作り、新しい堺のまちづくり・地域づくりのお手伝いをします。

サービスの具体的方向性

- ⑦ 堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。
- ⑧ 市民交流の場を作ります。
- ⑨ 堺のまちづくり・地域づくりのお手伝いをします。

	指標	単位	目標値	H30	R1	R2	R3	評価 (数値)	評価
堺の歴史文化に関する資料や 市政情報を収集・保存・提供	図書館作成デジタル地域資料閲覧回数	回	3,000	2,098	3,741	7,905	8,683	289%	◎
	地域資料のページ全体の閲覧回数	回	405,000	512,503	341,079	971,589	1,071,690	265%	◎
	マイクロフィルム化・デジタル化したコンテンツ数	点	3,000	2,192	2,031	790	1,045	35%	×
	郷土資料展記念講演会参加者満足度	%	80	67	83	83	85	106%	◎
	「堺歴史文化市民講座」参加者満足度（平均）「とてもよかった」「よかった」の割合	%	80	87	87	87	92	115%	◎
市民の生涯学習の場の提供	読書会等への団体貸出点数	点	2,000	2,239	960	1,182	442	22%	×
	家庭・地域文庫、公共施設、のびのびルーム等への団体貸出点数	点	26,000	25,109	20,726	7,920	10,256	39%	×
	市民との協働事業実施回数・延べ参加人数（堺図書館サポーター倶楽部、堺メモリー倶楽部、堺メモリー倶楽部、堺図書館ビブリオバトル倶楽部）	堺図書館サポーター倶楽部	回	861	715	151	287	-	-
		堺メモリー倶楽部	人	2,681	2,283	693	777	-	-
		堺メモリー倶楽部	回	25	18	11	26	-	-
		堺図書館ビブリオバトル倶楽部	人	135	61	51	70	-	-
		堺図書館ビブリオバトル倶楽部	回	4	4	3	2	-	-
		堺図書館ビブリオバトル倶楽部	人	21	104	38	11	-	-
市民の生涯学習の場の提供 市民の生涯学習の場の提供	市民主催事業参加者数（子ども夢基金助成事業による講演会等、市民が企画・運営した事業を指す。図書館は広報等に協力）	人	目標値を設定しない	1,157	1,381	95	97	-	-
市民の生涯学習の場の提供 区域の読書活動推進	「ボランティアステップアップ講座」平均参加率（参加者／定員）	%	80	64	102	96	68	85%	○

◎: 達成度 100%以上 ○: 達成度 80%以上～100%未満 △: 達成度 50%以上～80%未満 ×: 達成度 50%未満

令和3年度の実施について

- 資料を電子化する仕組みを構築し、広報さかい全市版や図書館発行の「ゆづりは」などを電子図書館で公開しました。地域資料の電子書籍やホームページの地域資料関連ページの閲覧回数は増加しており、利用者の興味・関心の高い分野です。行政資料を継続的に公開できる仕組みづくりに努め、利用促進のため積極的に情報発信を行っていきます。
- 行政部門への情報発信として、「仕事に役立つ 1 冊」と題し、仕事や暮らしに関する資料や堺の地域資料、図書館に関する情報を市内職員向けポータルサイト内の電子掲示板に定期的に掲載。掲載月は前月に比べて資料の予約は平均 8.4 倍(3.0 倍～11.5 倍)に増加しました。今後も継続して実施していきます。
- 堺図書館サポーター倶楽部は図書の修理や書架整理、壁面飾りなど、活動を徐々に再開しました。養成講座も昨年度は 1 館しか実施できませんでしたが、今年度は 4 館で実施。新型コロナウイルス感染症の感染状況に注意しつつ、全館で養成講座を実施し、倶楽部員の育成とサポーター活動の活性化を図っていきます。
- 堺メモリー倶楽部では中央図書館で所蔵している未登録の地図類の整理を実施。昔の堺市全図や大阪府下の地図、市内の祭りのポスターなどの大きさや出版年、作成者などのデータを作成し、資料の登録に向けた作業を行っています。令和3年度は 332 点のデータを作成しました。今後、職員がデータと現物を突き合わせ、資料の登録につなげていきます。
- 堺ビブリオバトル倶楽部と協働で「ビブリオバトル in さかい」を定期開催しており、全国大会の予選会には他市在住者からの応募もあります。堺ビブリオバトル倶楽部主催の「バトラーへの道！一知的書評合戦ビブリオバトル入門 & 体験講座」も定期的に開催され、受講者が「ビブリオバトル in さかい」に発表者として参加するなど事業の活性化につながっています。

図書館協議会委員の評価

- 「市民の生涯学習の場の提供」の数値が、コロナの影響とはいえ低調なのが気になります。
- 堺の歴史文化の保存や提供については、安定して実施できていると思う。しかしながら、情報発信や古文書などのリテラシー育成や YouTube での情報発信も担っていただきたい。
- 歴史的な資料を整理・保存し、広く発信することは図書館としての重要な役割である。順次電子化も進められているようであるが、学術的専門的なレベルとともに一般の方や子ども、外国の方にも興味をもってもらえる情報発信を進めてもらいたい。
- 図書館の資料・情報を活用した市民が、その成果を生かしたさまざまな活動・交流を図書館で行えるよう支援していくことが求められているという方向性はすばらしい。より積極的に堺市民活動サポートセンターはじめ、市や区の市民ボランティアグループに情報を伝え、連携した活動になってほしい。
- 堺の歴史文化を保存し、時代に継承して活かすために、地域資料のデジタル化、デジタルアーカイブの公開のひろがりには意義あることだと思う。戦災から守り伝えてきた堺の歴史的資料は堺市民とともに全国的にもたいへん貴重。堺メモリー倶楽部で図書館に残る未登録の郷土資料のデータ作成作業をし、登録へのサポートをし、今後職員が資料登録につなげていくことになっている。しかし、それ以上に堺市内の旧家や学校などに貴重な資料が眠っている。世代交代がすすみ、一家で保存しきれない貴重な地域資料の散逸が危ぶまれている。図書館への寄贈を申し出ても収納不能で断っている状況はたいへん残念。堺市文化財課、博物館などと連携し、堺の歴史文化の保存・活用のための課題を共有・解決の方向を探してほしい。

Ⅲ 各サービスの基本方針にかかる評価

- 「市民交流の場をつくります。」「堺のまちづくり・地域づくりのお手伝いをします」という方向性はとてもすばらしい。市民とともに全館で工夫した取り組みを続けてほしい。
- 行政資料等を電子化して公開する仕組みを構築したことは評価できる。市民との協働での地域情報の収集・整理・発信が一層進むよう工夫していただきたい。
- 未登録の地図類の整理の実施を評価する。
- 昔の堺市全図や大阪府下の地図、市内の祭りのポスターの大きさや出版年、作成者などのデータの作成を評価する。
- 市民の生涯学習の場の提供は新型コロナ感染拡大の影響を受けたと思うので、その旨できなかったことも記しても良いと思う。
- 「仕事に役立つ1冊」の掲載は、継続、拡充して欲しい。
- 地域資料の閲覧数など前年度に比べて大きく増加しているにはニーズにあった運営をおこなってる成果だとおもいます。デジタル化したコンテンツがもう少し増えればいいなとおもいました。

委員評価 A:4名 B:4名 C:2名 D:0名

Ⅳ 令和3年度 各区図書館の取組み状況

各区ではそれぞれ地域の実情に応じた取組みを行っています。次ページからは、令和3年度の取組みについて、各図書館でページを作成しました。

* 数値について

- 人口は堺市推計人口(令和4年4月1日現在)
- 人口以外は令和3年3月31日時点
- 移動図書館は市内を巡回するため各区の統計に含めず、下記に掲載

移動図書館

	令和2年度	令和3年度	前年度比
貸出者数	8,254 人	8,744 人	105.9%
貸出点数	42,097 点	42,554 点	101.0%
予約点数	2,544 点	2,536 点	99.7%
巡回日数	220 日	210 日	95.5%

※移動図書館は業務委託で運営。駐車場所数は26か所。巡回周期は約2週間。

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

令和3年度 堺区図書館の取組み状況

定量的指標	令和2年度	令和3年度	前年度比
貸出点数	632,759 点	696,007 点	110.0 %
区民千人当たり	4,256 点	4,698 点	110.4 %
予約点数	37,923 点	39,493 点	104.1 %
区民千人当たり	255 点	267 点	104.3 %
レファレンス受付件数	24,002 件	20,420 件	85.1 %
区民千人当たり	161 件	138 件	85.6 %
来館者数	320,152 人	367,847 人	114.9 %
区民千人当たり	2,153 人	2,483 人	115.3 %

※堺区人口 148,148 人(令和4年4月1日推計)

※中央図書館、堺市駅前分館、図書館カウンター堺東(令和3年4月2日開設)を含む

※図書館カウンター堺東は貸出者数を来館者数とみなす。

令和2年度図書館サービス評価を踏まえての課題
・図書館カウンター堺東の事業検証と利用促進。 ・図書館業務の専門的知識・技能の習得に加え、運営への主体的参画姿勢と推進能力を備えた職員の人材育成。 ・電子書籍・デジタルアーカイブ・動画配信等の非来館型サービスを中心とした図書館サービスの情報発信と、利用者の情報リテラシー※1の向上に対する取組み。 ・図書郵送サービスのモデル実施は2年度末時点で利用者が2人(3件)。今後広報やサービス内容の見直しを実施し、利用増に向けて課題を整理する必要がある。

※1 情報リテラシー：さまざまな種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、アクセスした情報を正しく評価し、活用する能力。(図書館情報学用語辞典 第5版より)

今年度の目標
・中央図書館として、以下の目標に取り組みます。 1. 図書館利用を促進するため、Twitter やホームページ等での情報発信を強化します。→【育む力】 2. 電子書籍・デジタルアーカイブ・動画配信等の非来館型サービスを中心とした図書館サービス利用促進に向け、利用者の情報リテラシーの向上に取り組みます。【育む力・学ぶ力】 3. 電子書籍提供サービス(電子図書館)に、新たに堺市独自資料や市広報、各種計画といった行政資料をコンテンツとして収集・公開する仕組みを構築します。→【創る力】 ・堺区の図書館として、以下の目標に取り組みます。 1. 市街地の新しいサービス拠点である図書館カウンター堺東の運営状況の検証や効果的な広報等を行いながら、利用促進をはかります。【育む力】 2. 青少年の図書館利用促進、読書振興のため、「ティーンズコーナー」を一般閲覧室に新設します。【学ぶ力】

【目標に向けた具体的取組み内容】

〔中央図書館〕

1. Twitter やホームページ等での情報発信強化			
サービスの具体的方向性		①市民の読書環境の充実にさらに努めます。	
目的	堺市立図書館の利用促進をはかる。		
内容	Twitter やホームページ等での図書館の開閉館情報、電子書籍・デジタルアーカイブ等図書館資料の紹介、イベント情報等、情報発信を強化する。市広報課や各区役所と連携し、市や各区の情報と図書館事業の情報を相互に発信する。		
効果	Twitter やホームページなど即時性の高い広報媒体で情報発信を行うことで、図書館に興味を持つ市民・利用者を増やし、利用促進につなげる。また、デジタルアーカイブや堺独自の電子書籍など、堺の地域資料を広報することで、市民の堺に対する愛着や誇りを醸成するとともに、広く堺を知ってもらうきっかけを提供する。		
指標	Twitter 投稿件数、Twitter フォロワー数、HPトップページアクセス数を成果指標とし、前年度比により効果測定を行う。		
実施結果	Twitter 投稿件数 499 件、フォロワー数 1,051 人、HPトップページアクセス数 2,490,205 アクセス		
効果検証 ※それぞれの項目を◎○△×の4段階で評価	①妥当性	◎	即時性の高い広報媒体で情報発信は必須である。
	②インパクト	◎	図書館 HPトップページに Twitter を表示するようにした(R4 年1月～)。
	③効率性	○	市各部局の公式 Twitter で関連するツイートをリツイートするなどして図書館のフォロワー以外へのアピールを行った。
	④協働の視点	—	
評価	Twitter 投稿件数：令和 3 年度 499 件←前年度 454 件(前年比 110%) フォロワー数令和 4 年 3 月末 1,051 人←令和 3 年 3 月末 840 件(前年比 125%) HPトップページアクセス数令和 3 年度 2,490,205 アクセス←前年度 2,454,367 アクセス(前年比 101%) Twitter ではイベントのお知らせだけでなく各館作成のブックリストの紹介を積極的に行った。臨時休館中や館内整理日に各館で行った作業を紹介したツイートに対して反応が多く寄せられた。令和 4 年 1 月図書館 CMSトップページに Twitter 埋め込みや、スマホ/PC ページをシームレス化するなど見やすく使いやすいものになるよう広報課と調整しながらリニューアルを行った。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し		
課題、改善提案等	デジタルアーカイブや堺独自の電子書籍など、堺の地域資料に関しては、あまり積極的に広報することができなかった。来年度は Twitter や HP での地域資料の広報計画を立て、定期的に広報することで市内外へ積極的な PR を行う。		

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

2. 非来館型サービスを中心とした図書館サービスの利用促進			
サービスの具体的方向性		⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。	
目的	利用者の情報リテラシー向上をはかることで、非来館サービスを中心とした図書館サービスを利用促進するとともに、情報を活用した豊かな市民生活につなげる。		
内容	電子書籍や、図書館ホームページの便利機能、E-レファレンス等の使い方講座を実施する。来館者に向けての広報とともに、Twitter 等でも、電子書籍やデジタルアーカイブなどの資料紹介、その他図書館サービスに関わる便利な情報を計画的に広報する。		
効果	電子図書館・デジタルアーカイブの利用促進。 非来館型サービスを促進することで、いつでも・どこからでも利用者が自分自身で情報を取得が可能になり、読書環境が充実するなど、情報を活用した豊かな市民生活につながる。		
指標	電子書籍閲覧回数、デジタルアーカイブ閲覧回数を成果指標とし、前年度比により効果測定を行う。		
実施結果	電子書籍閲覧回数 55,728 回、デジタルアーカイブ閲覧回数 40,046 回		
効果検証	①妥当性	◎	従来以上にコロナ禍での非来館型サービスが求められている。
	②インパクト	△	緊急事態宣言発出中の電子図書館臨時利用者 ID 発行など、昨年度同様のサービスに甘んじ、新規サービスの展開には至らなかった。
	③効率性	○	図書館の便利機能について、Twitter・来館者向けしおり・館報「ゆづりは」など、様々な媒体での広報を行った。
	④協働の視点	—	
評価	電子書籍閲覧回数令和 3 年度 55,728 回←前年度 75,587 回(前年比 73.7%) デジタルアーカイブ閲覧回数令和 3 年度 40,046 回←前年度 55,846 回(前年比 71.7%) 資格取得や生活に役立つ電子資料に重点を置いて収集にあたり、緊急事態宣言発出中は 104 件の臨時利用者 ID の発行を行い、積極的に Twitter で電子書籍の紹介を行った。臨時休館中の閲覧数 14,178 回・貸出数は 5,767 点で、令和元年度同時期と比較すると 272%に伸びた。デジタルアーカイブについては、昨年度の臨時休館時に「デジタル郷土資料展 昔の堺に思いを馳せる」を公開し閲覧数が急増したが、今年度は令和元年度同時期と比較すると 90%である。12 月に堺っ子読書フォーラムを動画配信で行い、81 名が申込み、4 本の動画が累計 258 回視聴された。サービスに関わる便利な情報については、紙媒体での広報につとめたが、人を集めての利用講座の実施には至らなかった。		
今後の方向性	拡充 ／ 継続 ／ 見直し		
課題、改善提案等	電子書籍利用促進の最大の課題はコンテンツの充実と考える。また読み上げや文字拡大機能などの使い方について、対面での利用講座だけでなく、動画の作成・公開など非来館型による非来館型サービスの利用促進をはかっていく必要がある。 具体的取組み1でも課題としたように、来年度は Twitter や HP での地域資料の広報計画を立て、定期的に広報することで市内外へ積極的な PR を行い、デジタルアーカイブの利用促進をはかっていく。		

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

3. 電子図書館での行政資料をコンテンツとして収集・公開する仕組みの構築			
サービスの具体的な方向性		⑦堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。	
目的	堺市独自の電子図書館資料として行政資料を収集・公開する仕組みを構築し、堺の情報の発信と継承に貢献する。		
内容	行政部門の各部署が作成した計画・要覧等の行政資料を堺市独自の電子図書館資料として収集し、公開する仕組みを構築する。		
効果	毎年定期的に作成される行政資料を電子図書館で体系的・網羅的に収集・公開することで、紙媒体の図書館資料と一括して検索できる仕組みが構築される。従来図書館で紙媒体でしか提供していなかった行政資料がデジタルで公開されることで、市民に限らず国内外の人々が堺のことを知り、学ぶことができるようになる。		
指標	堺市独自資料の公開件数・閲覧数、地域資料の E レファレンス件数を成果指標とし、前年度比により効果測定を行う。		
実施結果	堺市独自資料の新規公開件数 71 点・閲覧数 8,683 回、地域資料の E レファレンス件数 27 件		
効果検証	①妥当性	◎	紙媒体の行政資料の発行が激減しており、地域資料保存の観点から、図書館による電子書籍化の需要がますます高まる
	②インパクト	○	71 点の行政資料を新たに電子書籍化
	③効率性	○	PDF データを電子書籍として登録する仕組みを構築できた
	④協働の視点	—	
評価	堺市独自資料の新規公開件数 404 点(デジタルアーカイブ 333 点・電子書籍 71 点)←前年度 212 点(デジタルアーカイブ 205 点・電子書籍 7 点) 堺市独自資料の閲覧数令和 3 年度 8,683 回←前年度 7,905 回(前年比 109%) 地域資料の E レファレンス件数令和 3 年度 27 件←前年度 53 件(前年比 50.9%) PDFデータ等から電子書籍化する仕組みを構築し、広報さかい全市版(広報課)・令和 3 年度区政概要(市民人権総務課)・令和 3 年度堺市立図書館概要等 71 点を公開した。 地域資料の E レファレンスについては、昨年度は臨時休館中に依頼が急増したが令和元年度は 9 件だったことから、今年度はある程度定着していることがうかがえる。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し		
課題、改善提案等	電子書籍化する仕組みは構築できたので、行政各部署からの積極的な資料収集につとめるとともに、資料紹介・E レファレンス等広報を含めて利用促進をはかっていく。		

〔堺区〕

1. 図書館カウンター堺東の利用促進		
サービスの具体的な方向性		①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	市街地の新しいサービス拠点である図書館カウンター堺東の利用促進をはかる。	
内容	中心市街地である地域特性を利用した施設としての運営状況の検証や効果的な広報等を行う。	

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

効果	駅前の立地を活かし、開館時間は午前8時～午後9時、休館日は原則第1・第3木曜、年末年始と、他の市立図書館より長い時間サービスを行うことで、近隣住民のみならず通勤通学者に対する利便性を高める。		
指標	年間利用者数・貸出点数を成果指標とし、他市同等施設等との比較により効果測定を行う。		
実施結果	利用者数 20,245 人・貸出点数 47,451 点(令和3年4月2日オープン)		
効果検証	①妥当性	◎	立地、開館日・時間等利便性の高い施設での予約資料の貸出に特化したサービスが求められている
	②インパクト	○	施設オープンに際しては、パスポートセンター等と合同で市広報やパンフレットなど大規模な広報を行った。
	③効率性	○	業務委託での運営を行うことで、他の市立図書館より長い時間サービスを行うことができている。
	④協働の視点	—	
評価	図書館カウンター堺東：月平均貸出点数 3,954 点 札幌市大通カウンター：令和2年度月平均貸出点数 16,899 点 浦安市新浦安駅前プラザ図書サービスコーナー：令和2年度月平均貸出点数 13,784 点 オープン間もない4月25日から6月16日(6月1日から16日までは平日9時から17時まで予約資料貸出)緊急事態宣言発出により臨時休館した。2月15日に市役所本庁ロビーに臨時出張窓口を設置し、新規登録16件を受け付け、図書館カウンター堺東の案内も行った。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し		
課題、改善提案等	Twitter やホームページ等で定期的な広報、各区役所デジタルサイネージや移動図書館車での広報だけでなく、地域の事業所等へ出向くなど、これまで図書館を利用したことのない層への積極的なアピールが必要である。		

2. ティーンズコーナーの設置・運営			
サービスの具体的方向性		⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。	
目的	青少年の図書館利用促進、読書活動の活性化のため。		
内容	中央図書館一般閲覧室に中高生を中心とする 10 代向けの資料特設コーナーを設置する。勉強・部活・進路・友人関係などに役立つ資料を提供する。		
効果	自身の求める資料を探しづらい年代に向けたコーナーを設置することで、青少年の利用促進・読書活動の活性化をはかる。		
指標	10～19 歳の利用者数・貸出点数を成果指標とし、前年度比により効果測定を行う。		
実施結果	10～19 歳の利用者数,2,576 人・貸出点数 8,837 点		
効果検証	①妥当性	○	公共図書館をあまり利用しない 10 代の利用促進が求められている
	②インパクト	△	各区域館にすでにティーンズコーナーが整備されている
	③効率性	△	地域の学校等を通じての広報ができなかった
	④協働の視点	—	
評価	10～19 歳の利用者数令和 3 年度 2,576 人←前年度 2,561 人(前年比 100.6%)		

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

	10～19歳の貸出点数 8,837 点←前年度 8,816 点(前年比 100.2%) Twitter やホームページ、「ゆづりは」等でのコーナーの広報を行ったが、利用増にはつながらなかった。毎年各館職員からのおすすめティーンズ向け図書の紹介冊子「おもしろ BOOKS 探偵帖」を発行し、今年度は 51 冊を紹介した。青少年センター図書室に配架するティーンズ向け資料の支援を行った。
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し
課題、改善提案等	地域の学校等を通じての広報、Twitter での資料紹介やショートムービーなど若い世代合った方法での広報をしていく必要がある。

取組みの様子

1. 図書館カウンター堺東の利用促進



〈区役所デジタルサイネージ〉

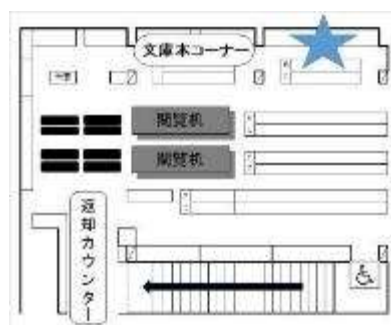


〈移動図書館車くすのき号〉



〈市役所本庁舎ロビー
臨時出張窓口〉

2. ティーンズコーナーの設置・運営



〈中央図書館
2階一般
閲覧室に設置〉



〈コーナー全体の様子〉

令和3年度の取組み総括

〔中央図書館〕

- ・ 4月25日～6月20日まで、緊急事態宣言発出により臨時休館し、6月1日からは各館臨時窓口において予約資料の貸出を行い、延べ14,054人・45,077点の利用がありました。その際、昨年度は電話でのみ受け付けた来館予約について、今年度は市電子申請システムでも受け付け、延べ3,271人の利用がありました。
- ・ 今後、電子書籍・デジタルアーカイブ・動画配信等の非来館型サービスを中心とした図書館サービスへの期待・要望はますます高まると考えます。毎年地域資料のデジタル化を進めており、デジタルアーカイブの公開点数は令和3年度末では1,701点となっています。書籍やテレビなど各メディアからの利用申請も64件、137点ありましたが、閲覧回数は前年度に比べると減少しています。次年度は電子書籍・デジタルアーカイブ・動画配信・堺市独自資料収集・公開等の非来館型サービスの拡充と計画に基づく定期的な広報、またターゲットを明確にして新たに効果的な利用促進を行っていく必要があると考えます。
- ・ 図書館業務専門研修として、児童サービス業務研修(絵本の読み聞かせ・ストーリーテリング・ブックトーク・選書と書評)を実施し、各図書館から新規採用から2年目までの8名が受講。2月には書誌作成業務研修を実施。10名が受講しました。引き続き運営への主体的参画姿勢と推進能力を備えた職員の人材育成が課題と考えます。
- ・ 図書郵送サービスモデル実施については今年度、4月25日から6月16日まで臨時休館したことで294人1,473冊の利用がありました。昨年度3件だったことに対し、送料往復有料にもかかわらず特に予約資料貸出の臨時窓口設置前の5月に多くの利用がありました。モデル実施にあたり認識された、送料の事前通知等様々な課題を本格実施に向けて解決する必要があると考えます。

〔堺区〕

- ・ 図書館カウンター堺東の利用の傾向としては、新規登録者数の1/4が在勤資格者であり、昼休み・退勤時間・帰宅時間の利用率が他の図書館と比較して高い等、ビジネスパーソンの平日利用が想定されます。利用促進に向けて、施設の立地・開館時間等の利便性について、これまで図書館を利用したことのない層へのさらに積極的なアピールが必要であると考えます。
- ・ ティーンズコーナーについては、高校との連絡会が中止されるなど学校図書館担当の教員などへ直接PRできる機会を持てませんでした。子ども室の利用者を一般閲覧室につなぎ、また全く図書館を利用していない青少年の来館のきっかけを作るなど、コーナーのターゲットをより明確にしたサービスを検討していきます。
- ・ 昨年度に比べレファレンス受付件数が伸び悩みました。Twitter等でレファレンスの案内やレファレンス事例紹介を行うなど市民への周知につとめます。また、件数の記載漏れがあったことから、職員への注意喚起を行います。

図書館協議会委員の評価

- ティーンズコーナーについては、是非、学校と連携して周知などで利用促進を進めてもらえたら嬉しいです。堺東拠点などアクセスのよいところ、ひいては学生がアクセスしやすい場所に本とふれあう機会、自習できる場所などを提供してもらいたくおもいます。
- 堺の歴史文化を時代に継承して活かしていく。地域の記憶の継承に繋げる。
- 中高生を取り込むことは難しいと思うが、ティーンズコーナー設置だけの問題ではないと思う。滞在型を指向していてその延長にコーナーがあるのではないかと思う。
- 図書館カウンター堺東について、今後も事業検証をすすめてほしい。
- ティーンズコーナーについて、高校や高校生の意見を反映してより効果的な取組みにしていってほしい。
- p.17「デジタルアーカイブや堺独自の電子書籍など、堺の地域資料に関しては、あまり積極的に広報することができなかった。」とありました。がんばってデジタル化を進めているので、地域資料の面白さなどをPRできると良いと思う。また、学校での地域学習、ふるさと学習に活用してもらえるように連携を進めてもらいたい。
- 行政資料を電子図書館で閲覧できるようにしたことは画期的な取り組みだと思います。今後も行政各部署からの資料提供がスムーズに進むような仕組みづくりをしていただきたい。
- 図書館カウンター堺東を設置したことで市民の利便性が高まったと思います。利用について、SNS 等も活用して引き続き PR に努めていただきたい。
- twitter やホームページで情報発信するのは、当然やるべきことであるが、評価指標でフォロワー数やリツイート数も大事ではあるが、そこに焦点をあてても意味がないのでは。twitter 世代はどういう情報を得たいのか。また、実際にはどのような世代のアクセスが多いのか、戦略的に内容を掲載して行く必要がある。図書館は twitter における利用ニーズをどこまで把握しているのか。
- 今後の方向性では、「拡充・継続・見直し」があるが、展開・応用というような文言があってもよいように思う。拡充とは意味が異なるため、、、ティーンズコーナーの設置・運営について、今後の方向性では継続とあるが、次のステップとしては、展開・応用ではないか。

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

令和3年度 中区図書館の取組み状況

定量的指標	令和2年度	令和3年度	前年度比
貸出点数	325,931 点	348,173 点	106.8 %
区民千人当たり	2,697 点	2,907 点	107.8 %
予約点数	16,257 点	15,169 点	93.3 %
区民千人当たり	135 点	127 点	93.8 %
レファレンス受付件数	4,070 件	5,554 件	136.5 %
区民千人当たり	34 件	46 件	136.4 %
来館者数	151,537 人	166,028 人	109.6 %
区民千人当たり	1,254 人	1,386 人	110.5 %

※中区人口 119,775 人(令和4年4月1日推計)

※中図書館、東百舌鳥分館を含む

令和2年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・人口あたりの貸出やレファレンス件数がやや低いため、来館者数やレファレンス件数の増加に取り組むこと
- ・ソフィア・堺内の施設や外部機関とより一層連携し、双方の活性化や課題の解決を支援すること
- ・コロナ下においても、おはなし会等の行事や館外取組みの開催方法を工夫し、柔軟に実施すること

今年度の目標

- ・新型コロナウイルスの感染状況に配慮しながら、図書館の利用が活発になるよう以下の取組みを実施します。
- 市民に図書館の便利なサービスをアピールします。→【育む力】
 - ・検索・予約・延長等の ICT サービス活用のためのスマートフォン・パソコン等の活用啓発を行います。
 - ・レファレンス事例等の紹介により市民ニーズを引き出します。
 - 「ソフィア・堺」の施設と連携し、複合施設にある図書館としての強みを活かした取組みを実施します。
 - ・「平和と人権資料館」と協力し、『保護者向け講座 親子で学ぼう！戦争があったこと』を実施します。
 参加目標人数を親子10組にします。→【学ぶ力】
 - ・「教育情報コーナー」がより活発に利用されるよう、教職員等に向けた情報提供を行います。
 →【学ぶ力】
 - 中区の地域と連携した事業を行います。
 - ・中区の史跡に関する『歴史文化市民講座』を開催し、地域の歴史文化の情報発信・継承に寄与します。→【創る力】
 - ・中基幹型包括支援センターや中保健センターなどとの協力事業を継続して行います。→【育む力】

【目標に向けた具体的取組み内容】

〔中図書館〕

1. スマートフォン・パソコン等の活用啓発			
サービスの具体的方向性		①市民の読書環境の充実にさらに努めます。	
目的	スマートフォン・パソコン等を使用した図書館サービスの利用促進をはかる。		
内容	新規登録時及び更新時に ICT サービスの利用状況を尋ね、チラシを用いてその場で図書館ホームページのパスワードの取得とマイライブラリー活用方法をレクチャーする。(期間を設けて実施し、効果を検証する。)		
効果	スマートフォン・パソコン等を使用した図書館サービスの利用が促進される。		
指標	ログインパスワード取得者及び活用相談者数		
実施結果	12 月から実施。12～3 月の新規登録又は更新申請者のうち、翌月中旬までのメールアドレス登録者 33 人		
効果検証	①妥当性	◎	スマートフォン・パソコン等を使用して図書館サービスをより便利に活用していただける。
	②インパクト	○	新規登録時や更新時に「マイライブラリーへの登録方法」をチラシに沿って具体的に案内することで、サービスを知っていただくとともに登録に結び付けることができた。
	③効率性	○	新規登録時の利用方法等の説明の機会に、チラシによってマイライブラリーへの登録の手順を簡潔に説明することができた。
	④協働の視点	—	
評価	計 90 人にチラシで説明。チラシを使うことで、登録手順の説明がしやすくなった。新規登録の方から「便利ですね」という評価がある一方、更新の方の反応は弱かった。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	新規登録時は比較的じっくり説明できたが、その場で本パスワードやメールアドレスの設定まで進むのはハードルが高かった。また、仮パスワードを発行してもメールアドレス登録まで進んでいない方も多かった。啓発方法や対象者を見直し登録促進を図りたい。		

1. レファレンス事例の紹介	
サービスの具体的方向性	
②くらしに身近なテーマを図書館で調べる・相談できるようにします。	
目的	市民に、図書館員にどういったことが相談できるのかレファレンスサービスの有用性をアピールし、図書館をより便利に活用していただく。
内容	職場研修でレファレンス事例の演習を行い、職員の技量を高める。 典型的なレファレンス事例を紹介する利用者向けチラシを作成し、期間を定めて配布する。
効果	市民により便利に図書館を活用していただく。
指標	来館者千人当レファレンス件数(令和 2 年度 26.9 件)
実施結果	来館者千人当レファレンス件数 33.4 件(5,554 件)

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

効果検証	①妥当性	◎	他館に比べレファレンス件数が低い状況にあり、館員のレファレンス技量の向上と利用者への周知は重要である。
	②インパクト	△	館内でのポスター掲示やチラシ設置とともに、新規登録時を中心にチラシを配布し、レファレンスサービスの周知に努めた。
	③効率性	○	サービスの存在を知っていただくことで、レファレンスサービスをより活用していただけるようになるものと考えた。
	④協働の視点	—	
評価	レファレンスはR2年度4,070件、R3年度5,554件、来館者千人当件数はR2年度34件、R3年度46件と件数・来館者千人当件数とも令和2年度を上回ることができた。館員が意識的に対応した結果と考えている。チラシ配布の効果はすぐに出てくるものではないが、継続していきたい。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	マイライブラリーへの登録の説明と合わせ新規登録時の説明項目が多く、利用者のニーズに沿った簡潔な説明が課題である。		

2. 保護者向け講座の開催			
サービスの具体的方向性		④子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。	
目的	戦争を知らない世代に平和への知識を深めてもらうとともに、現在の生活の振り返りや、平和について家族で考える機会をつくる。		
内容	「親子で学ぼう！戦争があったこと」と題して、子どもと保護者と一緒に堺空襲を中心とした体験談を聞いていただく。その後「平和と人権資料館」で、戦争中の生活用品などの展示などを見学していただく。		
効果	平和への知識を深めてもらうとともに、関連の図書館資料を展示し図書館の利用促進と平和と人権資料館の利用を促す。		
指標	参加者アンケートでの平和に関する知識の深まり度合		
実施結果	8月8日(日)開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
効果検証	①妥当性	—	
	②インパクト	—	
	③効率性	—	
	④協働の視点	—	
評価	—		
今後の方向性		拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)	
課題、改善提案等		各種講座については、適切な感染予防対策を取りつつ、今後も新型コロナウイルス感染状況に合わせて開催可否や開催方法を随時検討していく必要がある。	

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

3. 歴史文化市民講座の開催			
サービスの具体的方向性		⑨堺のまちづくり・地域づくりのお手伝いをします。	
目的	「歴史文化のまち堺」の発展と継承に貢献する取組みとして地域の文化財を学ぶ機会を作り、シビックプライドの醸成に寄与する。		
内容	中区にある史跡「土塔」について地元の郷土史家を講師に迎え、史跡を守り伝えてきた意義などについておはなしをうかがう。		
効果	地域の歴史や価値を広く市民に知ってもらい、郷土愛や地域への帰属意識を高め、まちづくりや地域の活性化に寄与する。		
指標	参加者アンケートでの史跡「土塔」に関する知識の深まり度合		
実施結果	11月14日(日)開催。定員35人に対し35人参加 事後アンケートでは、史跡「土塔」に関する知識の深まり具合として、「とても深まった」「深まった」が計90%		
効果検証	①妥当性	◎	地域の歴史や価値を広く市民に知ってもらい、郷土愛や地域への帰属意識を高めることは重要である。
	②インパクト	◎	図書館ホームページや広報、館内ポスターなどで開催の周知に努めた。ホームページでは本講座のお知らせ記事に378回のアクセスがあった。
	③効率性	○	申込開催から比較的早い時期に定員が埋まり、事前の周知が成果をあげた
	④協働の視点	◎	地元の自治会より紹介された郷土史家を講師にお願いし、開催に向けて丁寧なすり合わせができた。
評価	文化財課から史跡「土塔」からの出土瓦や写真パネルを借用し、図書館の資料とともに会場ロビーに展示した。参加者に見ていただくことで、より興味を持って講演を聞いていただけた。身近にある文化財への理解・関心を深めることができ、事後アンケートでも史跡「土塔」に関する知識が「とても深まった」が53%であった。直前まで開催が懸念されたが、感染予防対策を実施し、無事開催することができた。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	歴史文化市民講座については、今後もテーマの探索や講師選定が課題となる。また、講座開催にあたっては、適切な感染予防対策を取りつつ、新型コロナ感染状況に合わせて開催可否や開催方法を随時検討していく必要がある。		

3. 中基幹型包括支援センターとの協力事業	
サービスの具体的方向性	
③さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。	
目的	専門機関と連携し、介護予防や認知症に係る支援情報や関連情報を市民に提供することで、要介護者や認知症者又はその家族や介護者を支援するとともに、市民が関心をもつ機会を作る。
内容	中基幹型包括支援センターと協力し、「介護予防パネル展」「認知症パネル展」の実施と、「ミニ認知症講座」を開催する。
効果	要介護者や認知症者又はその家族や介護者を支援するとともに、中基幹型包括支援センターと協力し、市民への啓発を進める。

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

指標	「ミニ認知症講座」の参加者アンケートでの講座の認知症等に対する役立ち度		
実施結果	3月21日(月)の祝日開館日に実施。開催時間中16人が入場。個別相談希望者はなし。講座として実施しなかったためアンケートは実施していない。		
効果検証	①妥当性	◎	認知症や介護の情報については市民のニーズも高い。
	②インパクト	—	図書館ホームページや広報、館内ポスターなどで開催の周知に努めた。ホームページでは本講座のお知らせ記事に49回のアクセスがあった。
	③効率性	—	認知症の理解や対応には市民の関心も高い中、専門家による個別相談も併せて行う予定であり、市民のニーズに応えるものになると考えている。
	④協働の視点	◎	今回の企画は、中区基幹型包括支援センター及び認知症疾患医療センターである阪南病院との共同開催
評価	「介護予防パネル展」は8月、「認知症パネル展」は9月に開催することができた。パネルを見たり展示している関連本を閲覧して借りられる姿が多く見られた。 「ミニ認知症講座」は講座形式を予定していたが、新型コロナウイルス感染症患者が増加していたことから、「認知症パネル展・資料展」に形式を変え、その場で中区基幹型包括支援センターや阪南病院の専門スタッフが個別相談に応じる形で実施した。まん延防止等重点措置期間中の祝日開館日であったためか、入場者数は伸びず、個別相談希望者もなかった。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	中区基幹型包括支援センター等と連携した企画は今後も検討していきたい。各種講座については、適切な感染予防対策を取りつつ、今後も新型コロナウイルス感染状況に合わせて開催可否や開催方法を随時検討していく必要がある。		

取組みの様子

1 歴史文化市民講座「史跡土塔について」



ロビーの資料展示の様子



講義の様子

2 レファレンス事例紹介チラシ

「スマホ簡単設定ガイド」チラシ(表面)



3 「認知症」パネル展



パネル展示の様子

令和3年度の取組み総括

1. ソフィア・堺内のプラネタリウム「星空館」と連携し、図書館ではプラネタリウムのプログラムの案内とそれに合わせたブックフェアを実施しています。プラネタリウム側では放映前後のアナウンスやロビーでのポスターによる図書館の案内、といった相互の協力体制を進めています。
2. 各種の案内ポスターやお知らせが建物内や館内各所に多数掲示されていることから、閲覧室入口すぐに「アナログサイネージ」を設置し、図書館から今お知らせしたい数項目を簡略に案内できるようにしました。
3. 11月末から2月にかけて取替工事のためエレベーターが運休しました。事前の案内や運休期間中の対応など、階段の昇降の不自由な方やベビーカーのご利用者の方のご不便を最小限にするよう努めました。

図書館協議会委員の評価
● 個人的には堺市内では好きな図書館の一つです。とても綺麗で駐車場や駐輪場もあり便利です。駅から遠いのが難点ですが…。もっと来館者数増加に取り組んでもらえたらとおもいます。とても居心地のよい図書館だとおもいます。 ● 各種講座を、コロナ対策をしながらも、さらに開催してほしい。 ● スマートフォン・パソコン等の活用啓発について、地道な活動でご苦労さまです。これはどの図書館も課題だと思います。ノウハウを共有できる仕組みがあればよいと思います。 ● 歴史文化市民講座を継続している点は評価しますが、常連性が高い気もするので新しい人も参加できるような取り組みも必要だと思う。 ● ミニ認知症講座はまだ市民に広く正しく認知症のことが理解されていないので、とても意義のある活動だと思います。 ● 中基幹型包括支援センターとの協力事業「介護予防パネル展」、「認知症パネル展」について、講座はできなかったがパネル展に形式を変え、専門スタッフの個別相談が受けられるように工夫されたということで、開催を諦めずに代替手段を考え、実施されたことは重要だと考えます。 ● 平和と人権資料館やプラネタリウムなどの施設と併設という条件を生かした取り組みを今後も大切にすすめてほしい。 ● プラネタリウムのプログラムの案内とそれに合わせたブックフェアの実施を評価する。

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

令和3年度 東区図書館の取組み状況

定量的指標	令和2年度	令和3年度	前年度比
貸出点数	350,174 点	364,747 点	104.2 %
区民千人当たり	4,121 点	4,313 点	104.7 %
予約点数	25,235 点	27,261 点	108.0 %
区民千人当たり	297 点	322 点	108.5 %
レファレンス受付件数	6,291 件	7,038 件	111.9 %
区民千人当たり	74 件	83 件	112.5 %
来館者数	197,501 人	214,728 人	108.7 %
区民千人当たり	2,324 人	2,539 人	109.3 %

※東区人口 84,563 人(令和4年4月1日推計)

※東図書館、初芝分館を含む

令和2年度図書館サービス評価を踏まえての課題
・棚づくりやブックフェアに関し、良い評価とともに、ニーズを把握し色々と試みること、通常書架も含め全体で魅力を感じられる棚づくりを行うことなど、ご意見をいただいた。 ・閲覧席の削減や自習席について何らかの検討が必要。 本来、他の図書館同様、東図書館も自習席を設けていないが、席数が多く、個別ブースがあるため、自習目的の利用が多い。令和2年度は感染症対策を優先して、机ありの席を117から21に減らした。閲覧席に関しては要望が多く寄せられている。

今年度の目標
・市民の暮らしに役立つ資料・情報の提供に重点的に取り組み、以下の目標を達成します。 1. 魅力ある書架の構築のため、資料管理計画にもとづいた収書・除籍を行い、市民が資料を選びやすい棚をつくります。15年以上配架している開架資料の点数を昨年度比5%減とします。→【育む力】 2. 多様な課題の周知・解決のため、関係部局と連携してブックフェア等を実施します。連携機関を新たに増やします。→【育む力】 3. 市民の学びのため、堺歴史文化市民講座、保護者向け講座等を実施します。講座参加者アンケートでの満足度を80%以上とします。→【学ぶ力】

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. 魅力ある書架の構築	
サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	利用者が資料を選びやすい書架を作る
内容	資料管理計画にもとづいた収書・除籍を行う。利用が少ない・情報が古い等の開架資料の書庫入れ・除籍を進める。書架の各段はスペースに余裕をもった冊数におさえ、面展(本の表紙見せ)等の活用でアイキャッチを増やす。

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

効果	資料を手にとりやすく、目を引く書架にすることで、利用者の意図しない資料への出会いの場を提供し、利用を促す		
指標	15年以上配架している開架資料点数の前年比		
実施結果	・15年以上配架している開架資料を1,868冊除架した。前年度比5.7%減であり、目標の5%を達成した。 ・12月の館内整理日にあわせブックスタンドを工作し、一般資料架に30点の面展を設置した。		
効果検証	①妥当性	◎	書架の構築を継続することは図書館運営に欠かせない。
	②インパクト	△	面展は効果的で、面展された本はよく貸し出されるが、特に広報等行っていない。
	③効率性	○	サイン作成により、利用者の利便性が増した。
	④協働の視点	○	サポーターによる書架整理を一部再開した。
評価	上記の除架・面展以外にも、コロナ休館中に小説著者のサインを作成し、また、図書館サポーター倶楽部による書架整理も再開した。日々流動的な書架を適正に維持し、魅力的な棚づくりを継続する必要がある。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	面展は数の増設もだが、位置や見せ方など工夫することも必要である。書架の維持は広範囲かつ継続的な業務であり、優先度を高く取り組むべきであるとする。		

2. 関係部局との連携によるブックフェア等の実施	
サービスの具体的方向性	②くらしに身近なテーマを図書館で調べる・相談できるようにします。
目的	多様なテーマに合わせた資料・情報を提供し、地域の課題解決をはかる
内容	ビジネスパーソンや学生が多く利用する北野田駅前という立地を活かし、また、高齢化率が市内で二番目に高いという東区の特性にあわせて関係部局等との連携を行い、展示・ブックフェア等を実施する。関係部局とはテーマの設定を協議したり、パンフレット・パネルの提供を受けたりなど、それぞれの専門分野やテーマを活かした連携方法を模索する。
効果	様々なテーマで関係部局と連携して資料・情報を提供し、市民の学びの機会を増やすことで、地域の課題解決をはかる。
指標	連携機関数
実施結果	4機関(東保健センター、黒山警察署、東基幹型包括支援センター、登美丘高校) (新規で連携開始:黒山警察署・東基幹型包支援センター) 【詳細】 ・東保健センター・・・6月に食育をテーマとしたブックフェアを行った。隣接して、食をテーマとした小説を集めたことでよく利用があった。 ・黒山警察署・・・10月に警察による中高生の犯罪被害防止ポスター展示を行い、あわせて防犯のブックフェアを行った。

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

	・東基幹型包括支援センター・・・「本とつながるパネル展」と題し、12月から4か月連続でパネル展とブックフェアを行った。テーマは成年後見制度、介護保険、消費者被害、認知症。 ・登美丘高校・・・3月はじめに高校生の制作したPOP(100点程度)と本を合わせて展示を行った。H28年から毎年1回入れ替えを行い、常設している東図書館の人気コーナーである。今回も入れ替え直後からよく貸出に出て、利用者から声をかけていただくなど好評を得た。		
効果検証	①妥当性	◎	資料の貸出とあわせて、関係部局のパネル展示やパンフレット提供を行うことで、啓発や課題解決につながる事が予測できる。
	②インパクト	◎	5月のコロナ休館時に入口付近に常設の特設ブースを新たに設営し、以降、主に関係部局との連携ブックフェアに利用している。退館時に必ず通る場所であり視認性が高い。
	③効率性	○	テーマに沿って広く関連資料を集め、利用者が情報を入手しやすい場所をめざした。
	④協働の視点	—	
評価	啓発課題をもった関係部局と連携することで、より複合的な情報提供を行うことができた。基幹型包括支援センターが作成しスーパー等で配布したチラシに図書館のコラムを掲載してもらえ、図書館PRにも役立った。準備の際、足りない分野の資料購入なども実施し、ブックフェア終了後も要望に応えることができるようにした。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	新たな連携先との連携開始・現在の連携先との新しい取組みの企画が必要である。		

3. 講座等の実施	
サービスの具体的方向性	⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。
目的	市民の学びの機会を提供し、郷土愛や課題解決につなげる
内容	堺歴史文化市民講座、保護者向け講座等、それぞれのテーマについて深く学べる機会を提供する。講座開催に前後してミニブックフェアや関連情報の提供を行う。
効果	地域の歴史文化の学びの場を提供することでシビックプライドの醸成に寄与し、子育て世代が持つ課題等の解決等につなげる。講座に関連した情報提供を行うことで、関連分野の利用促進を図る。
指標	参加者アンケートにおける地域の歴史文化に対する知識の深まり満足度・子育てにおける課題解決満足度
実施結果	アンケート設問 ・堺歴史文化市民講座「堺の歴史文化に関する知識は深まりましたか。今回の講座で、その満足度はどの程度ですか」 参加者 26人 アンケート回答 17人全員が「満足」「やや満足」 満足 59%、やや満足 41%(アンケート回答者全員が「満足」・「やや満足」と回答) ・保護者向け講座「この講座の満足度はどの程度ですか(今後の子育てに活用できそうですか)」 参加者 28人 アンケート回答 18人中 7人が「満足」「やや満足」

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

	満足 11%、やや満足 28%		
効果検証	① 妥当性	○	目的とは合致しており堺歴史文化市民講座はシビックプライドの醸成に寄与した。
	②インパクト	◎	堺歴史文化市民講座はワークショップを同時開催することで、広い年代が集まり、満足度も高かった。
	③効率性	△	保護者向け講座は講座当日前後に関連ブックフェアを開催し、参加者以外にも資料の提供を行ったが、相乗効果はなかったと思われる。
	④協働の視点	○	保護者向け講座は大阪府金融広報委員会の講師派遣制度を利用し無償で開催した
評価	・堺歴史文化市民講座 テーマ「岩田千虎」 作品の実物の展示も行った。参加者の満足度も高く開催の意義があった。 岩田千虎は堺の彫刻家で堺市内各所に作品を残されているが知名度がやや低く、まとまった資料もない。地域の歴史文化を知る機会を設けるという観点で大きな貢献があり、「ゆづりは」への寄稿や、講師からの提供による資料登録は今後の研究につながると考えられる。 ・保護者向け講座 テーマ「親子のお金教室」 子どもも聞ける講座ということで広報したが、内容がやや難しかった。広報と講座内容にずれがあったことで参加者の満足度が低調だった。 関連ブックリストを作成し、ブックフェアも開催したことで関連資料の貸出につながった。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	講演会に際しては、参加者の関心や図書館で行うべきテーマの精査を行う。 感染症の状況により講演会については、開催時期の決定が難しく広報期間も短期間となる。講演会の参加人数も以前より減らして実施することから、事業自体の効率性が非常に悪く見直しの必要がある。		

取組みの様子	
1. 魅力ある書架の構築  〈面展〉	2. 関係部局との連携によるブックフェア等の実施  〈特設ブース 全景〉

3. 講座等の実施



〈堺歴史文化市民講座 ワークショップ風景〉



〈保護者向け講座 関連ブックフェア〉

令和3年度の取組み総括

1. 令和3年11月より一人用キャレルの座席の利用を再開し、席数21から47に増設しました。昨年度に比べると2倍以上ですが、コロナ以前から比べると4割程度の席数です。設置にあたっては間隔を十分にあげるようレイアウトを大きく変更しました。図書館資料利用者を優先するため、すべての座席に自習不可と明記をしましたが、長期滞在を防ぐのは難しく、現在8～9割は常に利用されている状態であり、休日は席を利用できない方もみうけられます。すべての方に公平に利用いただくために、管理システムの導入が必要であると考えます。
2. おはなし会、えほんの会は東図書館・初芝分館ともに11月から再開しました。東図書館では事前申込制をとり、窓がないおはなし室は使用せずじゅうたんコーナーで実施しています。あかちゃんえほんの会は初芝分館は11月から、東図書館は1月から再開しました。東図書館であかちゃんえほんの会の代替手段として昨年度より始めたブックバックは定例化し好評を得て、毎月続けています。1週間程度で12セットすべて貸出に出ます。

図書館協議会委員の評価
● 食育は子育てをしている親子に、興味のあるテーマなので、良いと思います。 ● 関係部局との連携によるブックフェア等は市民に正しい情報を提供できるので今後さらに積極的に取り組んでいただきたい。 ● 人口に比し定量的指標が高い点を評価する。 ● 講座の実施について「見直し」評価をされているが、主に保護者向け講座に関してのものと思われる。「事業自体の効率性」という視点だけでなく、対象とする人達の声や意見を反映した講座企画の検討をすすめてほしい。 ● 面展はとてもよいと思う。 ● 連携機関を増やして、お互いの活動にとってプラスになる企画を進めていけたことで、相乗効果が生まれたと思います。この取り組みは1の「魅力ある書架の構築」にも影響を与えていて、展示などの新しい切り口によって蔵書を魅力的に見せ、来館者の読書へと繋げる効果があったのではないのでしょうか。 ● 堺歴史文化市民講座の開催を評価する。

令和3年度 西区図書館の取組み状況

定量的指標	令和2年度	令和3年度	前年度比
貸出点数	285,973 点	300,240 点	104.9 %
区民千人当たり	2,119 点	2,238 点	105.6 %
予約点数	15,534 点	16,058 点	103.3 %
区民千人当たり	115 点	120 点	104.3 %
レファレンス受付件数	3,211 件	4,285 件	133.4 %
区民千人当たり	24 件	32 件	133.3 %
来館者数	109,384 人	127,837 人	116.8 %
区民千人当たり	811 人	953 人	117.5 %

※西区人口 134,133 人(令和4年4月1日推計)

令和2年度図書館サービス評価を踏まえての課題等
・西区子育て・教育環境整備事業としての環境整備による新たなサービスを発展させること。 ・人口からみて予約・貸出点数が低いため、改修での新たな空間の創設により関心を高め利用促進する。 ・キャプション評価実施により施設改善に反映すること。 ・専門機関、専門家と連携した相談事業の開催について進め、今後もテーマの設定や広報により定着させていく。 ・オンラインツール活用方法の案内やPRが課題。

今年度の目標
・西図書館拡充整備に伴い専門機関や学校施設等と連携した情報提供を行い、以下の目標を達成します。 1. 区民の学びと読書環境充実のため、市民、関係者の意見を反映した運用を行います。【 育む力 ・ 学ぶ力 ・ 創る力 】 2. 医療機関、学校・地域施設と連携した事業実施、情報提供を行います。【 育む力 ・ 学ぶ力 】

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. 西図書館拡充整備	
サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	市民・関係者の意見を反映した拡充・整備を行い、区民の学びと読書環境の充実をはかる
内容	西保健センター移転により、西区の事業として2階を図書館施設として拡充整備。 意見聴取のためのキャプション評価実施により、市民・関係者の意見を反映し、児童・地域資料書庫及びラーニングスペースを整備。 ボランティアの学習機会、活動の場の提供として、「ボランティアステップアップ講座」「西図書館まつり」を実施。
効果	市民ニーズを反映した拡充・整備により西図書館の利用を促進。
指標	来館者数、利用者アンケート施設全体の満足度

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

実施結果	・西区子育て・教育環境整備事業は平成30年度から始まり今年が最終年度となります。学校活動や地域活動でラーニングスペースと合わせて図書館資料が利用できるよう、2階に増設した児童・地域資料書庫に資料を整備しました。また、市民から寄贈された絵本を子ども司書とともに装備し「ほんのえき」に展示し、令和4年1月から2階フロアをオープンしました。小学校2校の利用がありました。 ・10月22日に視覚聴覚障害者センターの職員2名、西区包括支援センター職員2名の協力の元、キャプション評価※1を行いました。視覚障害当事者、高齢者の立場での図書館利用に関する貴重な意見をお聞きすることができました。普段意見聴取できない利用層から施設関係への意見が聞けたので、検討し施設改善に反映していきます。 ・新施設の有効活用として関係機関に働きかけたことで、「Litto(堺市学習と居場所づくり支援事業)」や「子ども食堂」などこれまで関わりのなかった団体の施設利用がありました。 ・行事では西図書館まつりを実施したことで新施設の周知ができました。3月12日にボランティアステップアップ講座「児童書編集者の仕事」と題し、出版社「ひかりのくに」書籍編集部の方を講師に招いて実施し、児童書の現状についてお話をいただきました。		
効果検証	①妥当性	◎	市民の意見聴取の手法として有効です。
	②インパクト	○	新たな機関の利用が今後の施設および資料利用につながります。
	③効率性	○	行事等について関係機関が増えるほど準備に時間を要します。
	④協働の視点	○	地域共生推進課と連携した場の利用、子ども司書の協力で新施設「ほんのえき」の棚づくり、児童出版社とのボランティアステップアップ講座実施
評価	来館者数前年同月比(1月)18%増、利用者満足度 3.98 で 0.3 減(ただし調査は新施設開館前)		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	新施設「学びと交流の広場」の利用促進のため、学校現場や地域への働きかけを中心に読書と関連した活動や、団体への交流の場の提供をすすめます。		

※1キャプション評価(環境評価手法):施設を利用する人がそれぞれ気になる場所や物を写真に撮り、それらにキャプション(説明)を付けることにより、その場所(施設)の評価をする。参加・行動型の調査方法

2. 医療機関、学校・地域施設と連携した事業実施、情報提供	
サービスの具体的方向性	③さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。
目的	暮らしに役立つ情報を提供する
内容	まちの保健室等の健康子育て相談事業の定期開催。専門家と連携したブックフェアの実施及びブックリストの作成。
効果	専門家の的確な情報提供により地域住民の健康増進への意識を高める。
指標	参加者数(新規・リピーター数)、利用者アンケート調べ物(調査・研究)サポート満足度
実施結果	・まちの保健室は感染拡大の影響で11月からようやく定期的に実施することができました。

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

	・11月に国立がん研究センターの巡回展示資料によるブックフェアを行いました。小学生から高齢の方まで、幅広い年代に利用してもらえました。図書館という日常に利用している空間でがん情報に触れる機会を提供することで市民への健康への関心を高める役割を担えました。 ・同様の視点から昨年度に続き、総合医療センターの専門看護師に協力いただき、医療コラム入りブックリストとして「認知症」の改訂版を作成しました。		
効果検証	①妥当性	◎	専門家との連携により多様化したニーズにこたえられるため。
	②インパクト	○	感染症の影響で例年どおりの広報にとどまりました。
	③効率性	◎	専門機関との協力関係がすでにあり依頼しやすいため。
	④協働の視点	○	国立がん研究センター、総合医療センター、大阪府看護協会との協働
評価	あかちゃんといっしょ健康相談、まちの保健室ではほぼ定員の申込がありました。 利用者アンケート調べ物(調査・研究)サポート満足度は3.65で0.5減。十分な広報や働きかけができなかったことが要因としてあげられます。		
今後の方向性	拡充 / <u>継続</u> / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	「まちの保健室」は10月まで開催出来ず、アンケートが11月の実施。暮らしに役立つ情報提供という図書館の役割としてのPRが出来ませんでした。 連携事業は感染状況の影響を受けやすいため、行事以外での連携として関連図書展示の企画やブックリストの作成を更に進めていきます。		

取組みの様子	
1 視覚障害者当事者によるキャプション評価	2 西区広報2月号掲載「学びと交流の広場」
	
3 こども司書養成講座	4 こども司書による2階「ほんのえき」の棚づくり
	
5 まちの保健室等の健康子育て相談事業	6 がん関連図書展示
	
	7 西図書館まつり
	

令和3年度の取組み総括
1. 市民からの意見聴取を施設整備に反映させ、2階「学びと交流の広場」が1月にオープンしました。そのことにより来館者数が伸びてきています。令和3年度堺市立図書館利用者アンケート調査の結果では施設全体の満足度が微減していますが、令和4年1月の来館者数を前年同月比で比較すると18%の増加がみられました。新設のこの点を活かした利用促進に結びつけられる企画検討が必要です。 2. まちの保健室やブックリスト作成など専門家との連携による情報提供を促進しました。感染拡大により事業が実施出来ないことが続きましたが、生活(子育て、健康)に役立つ図書館という役割を進めます。感染悪化の状況下でレファレンス件数は前年度比33%アップしています。これを踏まえ課題解決に向けてのPRや資料充実に結びつけていくことが課題と考えています。

図書館協議会委員の評価
● 学びと交流の広場オープンにより来館者数が伸びている事はとてもいいことだとおもいます。 ● オンラインツールの活用の案内や PR だけではなく、オンラインツールを活用できない世代にどのようにアプローチしていくのが課題となる。 ● 医療情報について、専門家との連携により、的確な情報提供が出来るのはとても良いことだと思う。 ● 学びと交流の広場がオープンし、新しい活動に期待する。 ● 西図書館まつりの実施を評価する。 ● 2階「学びと交流の広場」という新しいスペースの運用が始まりました。様々な手法を取り入れ、区民や団体のニーズを反映させようと努力されたことは素晴らしいと思います。今後の展開を期待します。「学びと交流の広場」が旧来の自習・勉強の場というだけでなく、多様な人々が集まり、新たな価値を生み出すような取り組みが活発に行われるよう、待ちの姿勢でなく、地域で活動する団体などとの積極的な連携を深めていただきたいと思います。 ● 新施設「学びと交流の広場」を生かした取組みの展開がすばらしい。今後も積極的に取組み内容や成果、市民の声、市民との共同についての努力や実際などを紹介してほしい。他の区でもこうした施設をひろげるよう条件をさぐりたい。

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

令和3年度 南区図書館の取組み状況

定量的指標	令和2年度	令和3年度	前年度比
貸出点数	621,280 点	631,786 点	101.7 %
区民千人当たり	4,517 点	4,673 点	103.5 %
予約点数	49,943 点	49,377 点	98.9 %
区民千人当たり	363 点	365 点	100.6 %
レファレンス受付件数	13,609 件	13,769 件	101.2 %
区民千人当たり	99 件	102 件	103.0 %
来館者数	335,821 人	343,050 人	102.2 %
区民千人当たり	2,442 人	2,537 人	103.9 %

※南区人口 135,213 人(令和4年4月1日推計)

※南図書館、桐分館、美木多分館を含む

令和2年度図書館サービス評価を踏まえての課題
・多文化情報コーナーの充実、必要とする市民への周知。 ・コロナ禍において外国人市民が母国語の情報を受け取る機会が難しい。外国人市民と情報を結びつける取組が必要。 ・集会室、学習ルーム、対面朗読室、おはなし会等、コロナ禍で縮小を余儀なくされている点は堺市立図書館共通の問題。 ・南図書館ホールについて、受付、返金等柔軟に対応すべき。

今年度の目標
様々な社会情勢の変化や新しい生活様式への移行をふまえながら、「南区基本計画」、「SENBOKU New Design」で示されている子育て支援、教育環境の充実等の区の課題の解決支援に向けて、職員一人ひとりが主体的に区民視点に立ったサービス向上に取り組めます。 1. 区の課題を解決支援するための資料を収集します(ブックフェア実施)。また、堺・泉北の歴史、文化を身近に感じられる資料を収集します(コーナー設置)。【育む力・創る力】 2. 子育て支援サービス充実をめざし、今年度本市に移管された大型児童館「ビッグバン」と交流、連携を図ります(連携事業を1回以上実施)。【育む力・学ぶ力】

【目標に向けた具体的取組み内容】

〔南図書館〕

1. 堺・泉北コーナー(堺・泉北がわかる本)の設置	
サービスの具体的方向性	②くらしに身近なテーマを図書館で調べる・相談できるようにします。
目的	地域に関する資料を提供することで、くらしに身近な課題の解決を支援する。
内容	堺・泉北の歴史、文化を身近に感じられる資料を収集しコーナーを設置する。

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

効果	興味を引き手に取りやすい資料を交えて、堺・泉北に関する資料を提供することで、くらしに身近なテーマを調べる契機とし、課題解決に資する。		
指標	堺市立図書館ホームページ以外への情報の掲載、利用者アンケート調べ物(調査・研究)サポート満足度		
実施結果	書籍だけでなく、雑誌、コミック、パンフレット等247点を展示。コーナー周知のため、南区広報10月号1面記事、ゆづりは第60号で紹介。利用者アンケート調べ物(調査・研究)サポート満足度結果 平日 3.72 日曜 3.65(R2 3.62/3.77)		
効果検証 ※それぞれの項目を◎○△×の4段階で評価	①妥当性	◎	豊かな歴史文化は、南区の特徴であり、これらを学び、発信する取組の必要性は区基本計画においても課題になっていることから、コーナーの設置を実施した。
	②インパクト	◎	区広報のリニューアルに合わせ、1面カラーで南図書館の記事を掲載し、「地元のことをもっと知りたいと思ったら…」として、堺・泉北がわかる本コーナーを紹介した。
	③効率性	○	だれもが興味を持ちやすい資料をひとまとめにコーナー化し、面展示も行うことで、一覧性を高め、区の魅力を知るきっかけとした。また、市採用の教科書もあわせて配架し、利用者自身が横断的に調べることができる。
	④協働の視点	-	
評価	ウォーキングマップやグルメ雑誌の特集号、堺が舞台になっている小説・コミック、学校史、教科書など、区民にわかりやすく、興味が持てる資料247点をコーナー化した。この取組を行うことで、図書館が区の課題解決支援に取組み、身近なくらしに役立つ情報・資料を提供している地域の知の拠点であることの認知度を向上させることができた。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	持続的、計画的な取組を継続して実施する。		

2. 大型児童館「ビッグバン」との連携事業の実施	
サービスの具体的方向性	④子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。
目的	今年度本市に移管された大型児童館「ビッグバン」と交流、連携したイベントを実施し、子育て支援サービス充実に資する。
内容	地元絵本作家 H@L(ハル)さんによる親子で楽しむワークショップ「とび出す絵本をつくってみよう！」などビッグバンと連携したイベントを実施し、図書館での資料提供とともに、子育て支援や地域の子ども・保護者同士がふれあい、交流を深める場を提供する。
効果	図書館外の施設と連携した児童向けイベントを実施することで図書館サービスのさらなる周知を図るとともに、本市に移管されたビッグバンを当館でも広報することにより、その相乗効果として両施設の利用促進を図る。
指標	ビッグバンとの連携イベントに対する参加者数・満足度、図書館以外を会場とするイベントに対する意見等

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

実施結果	区の重要な子育て支援・教育施設である「ビッグバン」と子育て支援連携事業として、画家・絵本作家のH@Lさんを講師としたワークショップを実施した。当初は7月に実施予定であったが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期し、令和4年1月29日に実施。		
効果検証 ※それぞれの項目を◎○△×の4段階で評価	①妥当性	◎	区では、基本計画に基づき、子育て支援、教育環境の充実に取り組んでおり、コロナ禍の中でも親子で一緒に学べる事業が求められる。ビッグバンと子育て支援で連携し、ドーム型のイベント用ホール(明るく、床でそのまま作業ができる環境)を活用して実施することで、図書館ホールとは違った刺激が得られる。また、堺市立となり一部無料で入場できるようになったビッグバンのPRにもなっている。
	②インパクト	◎	申込は数日で定員に達した。申込時点で会場がビッグバンであること、無料で入場できることを案内することで、ビッグバンの周知にもつながった。
	③効率性	○	南区基本計画の取組みである子育て支援、教育環境の充実に資する事業である。
	④協働の視点	○	当日の運営協力に読み聞かせボランティア団体から1名参加。
評価	参加15組(児童18人、保護者16人) アンケート結果(5段階) とてもよい13、よい2		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	ビッグバンとの連携では、講座のほかえほん広場新設に伴い、市民からの寄贈絵本、児童書など約600点を譲渡した。今後もビッグバンとの協力体制を維持する。		

取組みの様子

1. 堺・泉北がわかる本コーナー



コーナーの様子



南区広報10月号

2. ワークショップ風景



令和3年度の取組み総括

1. 日本語学習コーナーについては、ベトナムや韓国、中国で刊行された日本語に関する資料を購入するなど、継続して充実を図っている。(令和3年度末1,669点)また、ご指摘のあった周知については、国際課発行の外国語ニュースレター、南区広報、「ゆづりは」に記事を掲載した。
2. ロビーを使用して文化財課の堺鉄砲鍛冶屋敷井上家パネル展を実施。中央図書館で実施した郷土資料展の抜粋展示を実施。
3. ホール臨時休室による使用日変更、返金等の対応について、使用申請者と調整して実施。
4. ICTを活用した情報提供として、政策企画部の「企業との連携事業」を活用し、学習ルームの混雑状況を発信する「混雑ランプ」を運用開始。12月～3月末の館外よりのアクセス件数 2,081 件。



図書館トップページ > 施設一覧 > 【混雑ランプ】 南図書館学習ルーム混雑状況

[戻る](#)

【混雑ランプ】 南図書館学習ルーム混雑状況

南図書館学習ルームの混雑状況を「空き」「やや混み」「混み」で表しています。
ご来館時に状況が変わっている場合がありますので、ご了承ください。



- 空き（青色） 空き席が7席以上
- やや混み（黄色） 空き席が3～6席
- 混み（赤色） 空き席が2席以下または満席

<注意事項>

「情報なし」と表示されているものは、混雑情報が何もない状態を表しています。
「空き」の状態ではありませんので、ご注意ください。

[戻る](#)

[トップページ](#)

[蔵書検索・予約](#)

[お知らせ・行事案内](#)

[サイトマップ](#)

図書館協議会委員の評価
● ビッグバンとの連携事業により子育て支援サービスが充実していることはよいことだとおもいます。 ● ビックバンとの連携を評価する。 ● 堺・泉北コーナーを設けて、新たな切り口で資料247点をコーナー化されたことはとても良い取り組みだと思います。さらに資料を充実させることと魅力的なコーナーづくりを期待します。 ● 日本語学習コーナーなど外国人市民が多い他地域の図書館の事例も参考に、ニーズを把握したり、外国市民向けの活動をしている団体との連携をして充実させていくと良いのではないかなと思う。 ● 「混雑ランプ」の取り組みは面白い。SNS等で、存在の周知をすると良いと思う。 ● 混雑ランプは新型コロナウイルス感染症対策としてだけでなく、日常から使えると便利だと思う。 ● 南区在住者として、3駅全ての駅前に図書館と分館があるにもかかわらず来館者数がそれほど高くないことは不思議に思う。分館の開館時間が10～17時と短いことが学生や職業人には利用しにくいのが一因かもしれないが、スマートフォンやパソコンを使用して利便性を知らない人が多いと実感している。広報10月号は紙面が大きかったが、そのことの記載がなかったのは残念だった。 ● 混雑ランプはとてもよい。 ● 多文化サービスの取り組みについて、令和2年度は課題として認識されている。令和3年度は、資料の充実を継続的に図っているが、具体的な取組みなども必要になってくる。

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

令和3年度 北区図書館の取組み状況

定量的指標	令和2年度	令和3年度	前年度比
貸出点数	450,819 点	475,798 点	105.5 %
区民千人当たり	2,827 点	3,000 点	106.1 %
予約点数	24,722 点	25,355 点	102.6 %
区民千人当たり	155 点	160 点	103.2 %
レファレンス受付件数	5,143 件	5,725 件	111.3 %
区民千人当たり	32 件	36 件	112.8 %
来館者数	180,268 人	193,432 人	107.3 %
区民千人当たり	1,130 人	1,220 人	107.9 %

※北区人口 158,573 人(令和4年4月1日推計)

令和2年度図書館サービス評価を踏まえての課題
・子どもの読書推進や読書習慣の向上、図書館の利用促進につながる取り組み。 ・リモート形式や動画配信などの非来館型、館内で実施の来館型、それぞれの世代のニーズや状況に対応した事業の実施。 ・利用の多い子育て世代に支持される図書館サービスの展開。

今年度の目標
新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底し、市民のくらしに役立つ資料・情報の提供に重点的に取り組み、以下の目標を達成します。 1. 子どもたちが主体的に学習方法を身に着ける支援を行うため、調べもの資料を積極的に収集し、児童向けレファレンス資料コーナーを新設します。【育む力・学ぶ力】 2. コロナ禍で実施が困難になっている行事の代わりに、利用者が来館しなくてもできるサービスを実施することで読書活動の推進につとめます。【創る力】 3. 子育て世代が安心して気軽に利用し、様々な情報を獲得できるよう、「子育て支援情報コーナー」の充実につとめます。【育む力】

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. 児童向けのレファレンス資料コーナーの新設	
サービスの具体的方向性	②くらしに身近なテーマを図書館で調べる・相談できるようにします。
目的	子どもの主体的な学習活動の支援、図書館利用促進
内容	子どもの調べものに関するコーナーを開設し、調べ方の本や調べものに役立つ資料などを配置する。コーナーについてのアンケートを実施し、効果測定を行う。また子ども司書養成講座を開催し、調べ方についてレクチャーする。

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

効果	子どもが自ら調べものをしたり解決できるコーナーを設置し、探求心を醸成する環境を整備することで、図書館の利用促進、読書活動を推進する。また調べ方のレクチャー等の支援を通して、子どもの自主的・主体的な学習につなげる。		
指標	アンケートを行うことで子どもが当該コーナーを利用しているか、内容などに満足しているのか検証する。満足・不満いずれの意見もこのコーナーへの期待値として扱う(意見数)。		
実施結果	子どもの調べものに関するコーナーを「しらべるコーナー」として7月に開設した。 在籍冊数 86冊 (3/31現在) 内訳-0類 28冊/1類 1冊/2類 10冊/3類 11冊/4類 18冊/5類 2冊/6類 1冊/7類 6冊/8類 9冊 それに伴ってアンケートを実施した。「しらべるコーナー」に対する意見募集の回答数 60件、意見総数 94件。 連携して行った子ども司書養成講座では6人が参加した。全2回のうち、第1回では「百科事典の使い方」をテーマに職員が講義を行い、講座終了後に「しらべるコーナー」を案内した。		
効果検証	①妥当性	◎	子どもが自主的に調査する能力を身に着ける際に役立つコーナーである。疑問や好奇心を持った時に、しらべるコーナーの資料を用いて、自分の力で答えに近づくことができれば、自信につながり、学習意欲を高めることになる。
	②インパクト	○	PRチラシを作成し貸出カウンターでの広報に努めた。他に図書館ホームページ、ゆづりは、Twitterでも広報を行った。
	③効率性	○	子ども司書養成講座と連携させることで、『ポプラディア百科事典』の利用方法をはじめ、参考図書の使い方を実際に子どもたちに教えることができた。
	④協働の視点	○	子ども司書養成講座の講師として小学校教諭に本の紹介カードの作り方の指導をしていただいた。
評価	子どもがどの程度調査用資料として利用しているかは一般の参考図書コーナーと同様、利用回数を計上するのは難しい。 「しらべるコーナー」についてのアンケート意見数は94件あった。ただし、「しらべるコーナーにおいてほしい本は？」という趣旨に合致した意見は18件だった。それ以外は、漫画や小説が書かれているものが多く、読みたい本や購入希望であったため、児童書の選定の参考にした。 子ども司書養成講座についてのアンケートでは、全員が「よかった」と回答した。「しらべるコーナー」については、「まあまあよかった」が「よかった」より多かったため、まだ改善の余地があるものと思われる。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	今年度途中から始めたが、徐々に冊数を増やし、新しい資料も取り入れている。(2020年以降の資料が55冊)。次年度からも蔵書管理計画にも明記し、予算枠を確保しておく必要がある。 子ども司書養成講座との連携は有効と思われるので、今後も継続していく。過去に講義を受けた子どもたちの意見、希望を集め、反映させていく仕組みを考える必要がある。		

2. 利用者が来館せずとも参加できる事業の実施	
サービスの具体的方向性	⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。
目的	来館に不安のある方、来館が難しい方の利用促進と読書推進
内容	図書館ホームページや電子申請を活用し、長い間親しまれてきた絵本の思い出を利用者同士で共有する「ネットで共有！思い出の絵本」など、来館せずとも参加できる事業を実施する。広報は北区とも連携して実施する。
効果	ホームページ等を活用した来館不要な申込みや参加を可能とすることで、来館に不安がある、または来館が難しい場合でも図書館に親しんでもらうことができる。また北区のホームページ等でも発信することで、非利用者が図書館へ興味をもつ機会を作ることができる。
指標	開催数・参加者数 イベント参加者アンケートでの非来館型イベントに対する評価
実施結果	堺市の電子申請システムを利用してホームページ上で下記のイベントを行った。館内では投票結果を踏まえた資料展示等を行い、来館者にも見てもらった。また参加者のおすすめ本はHPで紹介し、それを見た人が容易に予約できるようにした。 ① <投票企画> あなたの好きな表紙はどれ？(7/1-7/31) 電子のみ ※装丁が魅力的な本をHP上で紹介し、好きな本に投票してもらう。 電子 53 件 ② 本の名まえでしりとりをしよう！(7/20-8/22) 電子・来館 ※本のタイトルでしりとりをしてもらう。5冊で完成。 電子 0 件 来館 13 件 ③ ネットで共有！思い出の絵本(9/15-10/15)電子のみ ※図書館員が選んだ10冊についての思い出や感想を書いてもらう。 電子 21 件 ④ 私のイチオシ紹介します！(10/21-11/18)電子・来館 ※利用者がおすすめしたい本のテーマを決め、1～3冊まで紹介してもらう。 電子 17 件 (アンケート：とてもよかった 15 よかった 2) 来館 13 件 ⑤ 北図書館クエスト～隠された秘宝とは～(12/1-1/12)電子・来館 ※図書館に関する謎解き問題を解いてもらう。かんたんモードは紙、ふつう、むずかしいモードはHPで出題。 電子 16 件 (アンケート：とてもよかった 13 よかった 1 ふつう 2) ★問題を120枚配布(うち、答え合わせに窓口に来た人：16人) ⑥ 心に残るファンタジー(2/8-2/27)電子のみ ※思い出のファンタジー作品を投票。結果を発表し、ブックフェアを実施する。 電子 18 件(アンケート：とてもよかった 9 よかった 7 ふつう 2)

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

効果検証	①妥当性	◎	コロナ禍でも図書館に来館しなくとも楽しめる企画として行った。
	②インパクト	○	図書館ホームページ、Twitter、北区役所ホームページ、また来館者にも参加していただける企画ではチラシ、ポスター等で広報した。
	③効率性	◎	コロナ禍はもちろんだが、普段から多忙で図書館に行けないという人や北図書館以外の利用者でも気軽に参加してもらえるという利点がある。
	④協働の視点	—	
評価	実施回数は6回、電子での参加者数は125件。 職員にアイデアを募り、それぞれで企画、実施した。参加数にバラツキがあるが、簡単に回答できるものと少し複雑なものとで差ができたのではないかと。子どもを対象としたものは、電子での参加がないことが実証できた。アンケートは後半から取り始めたが、参加者の反応はおおむね良かった。 非来館者へのサービスという視点で始めたが、実施後にその結果を館内で掲示、あるいはブックフェアという形で展開した。非来館者の選んだ本や意見を来館者が見て、家族で話している場面もあった。本来、交わらない人同士の繋がりを生むきっかけにもなった。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	参加者を多く集めるにはなるべく簡単に回答できるものが良いと感じた。ただ、参加者の意見や感想を知りたい場合には、少しハードルが上がっても行いたい企画もある。今回はそれぞれ初の試みとして行ったが、これらを踏まえて今後より魅力ある企画を考えていきたい。		

3. 子育て支援情報コーナーの充実			
サービスの具体的方向性		④子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。	
目的	子育て世代が気軽に出かける場所、様々な情報収集の場としての図書館の利用促進		
内容	「子育て支援情報コーナー」でのミニブックフェアの実施、情報発信などを北区の関係部局と連携しながら行う。子育て関連資料を積極的に収集し、提供する。		
効果	子育て世代に向けて情報発信やコーナーの充実をはかることで、図書館の利用促進や読書推進をはかる。		
指標	ミニブックフェアの開催数、連携先、情報発信数 子育て支援資料の利用点数		
実施結果	子育て支援情報コーナーブックフェア実施回数4回、北保健センターと連携した子育てに関するブックフェア実施回数2回、Twitter 投稿件数1件。北区広報 3 月号 1 面にコーナーの紹介記事を掲載。 子育て世代への図書館利用促進リーフレットを作成した。配布先：北区役所子育て支援課および保健センター、企画総務課（市政情報コーナー）		
効果検証	①妥当性	◎	子どもと安心して訪れることができ、また、情報収集を図ることができる場所として、図書館内の子育て支援情報コーナーの充実を図り、関係部局と連携して有用な情報等を市民に広報することは必要である。

IV 令和3年度 各図書館の取組み状況

	②インパクト	○	図書館公式 Twitter での広報のほか、関係部局ヘリーフレットの設置を依頼した。また、子育て支援関係のチラシや冊子などをブックフェアコーナーに配置するなど、相互に広報を図り、新規利用者の開拓と利用促進につとめた。
	③効率性	○	子育て世代が訪れる子育て支援課や保健センターなど関係部局に利用促進リーフレットの配布を依頼することで、図書館が子どもと安心して気軽に利用できる場所であることをPRすることができた。保健センターと連携したブックフェアの実施に加え、新たに子育て支援情報コーナーにブックフェアコーナーを設置したことを公式Twitterで発信した。
	④協働の視点	○	連携先: 北区役所子育て支援課および保健センター、企画総務課(市政情報コーナー)
評価	北図書館の子育て支援情報コーナーの資料貸出点数は 7,992 冊(3 月末現在)。全館の利用数(41,884 冊)の約 1/5 の貸出数を占め、他区域館と比較しても2倍以上の貸出数である。子育て支援情報コーナーのブックフェアでは、テーマの資料だけでなく、子育ての不安を解消する一助となる資料など子育てに役立つ情報を配置することで、子育て世代の方が効率よく情報を獲得できるコーナーになったと考える。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	今後はペーパーレスの取り組みが一層必要となるので、子育て世代に向けて、Twitter 等で図書館の子育て支援情報コーナーについてなどの情報発信が必要となる。子育て世代のニーズを踏まえ、資料の収集や提供について工夫する必要がある。子育て世代の図書館未利用者の利用促進のために、情報収集に努め、関係部局との連携も継続して図る必要がある。		

取組みの様子

1. 児童向けのレファレンス資料コーナーの新設



▲子ども司書養成講座(調べ方について)



▲子どもの「しらべるコーナー」

2. 子育て支援情報コーナーの充実



▲子育て支援情報コーナーでのブックフェア

2021年度 子育て支援情報コーナーの資料貸出数						
堺	6,716	中央一般	中央児童	堺市駅前		
		2,666	661	3,389		
中	3,852	中	東百舌鳥			
		2,755	1,097			
東	3,543	東	初芝			
		2,506	1,037			
西	3,252	西				
		3,252				
南	5,715	南	梅	美木多		
		3,410	1,238	1,067		
北	7,992	北				
		7,992				
美原	3,313	美原				
		3,313				
他	7,501	青少年	人権	TC堺東	webでの延長	移動
		482	337	703	5,767	212
合計	41,884					

▲子育て支援情報コーナーの資料貸出数



▲子育て世代向けの利用促進リーフレット

令和3年度の取組み総括

コロナ禍での図書館運営では集客を要する行事(おはなし会やよみきかせ会)の中止と来館者への短時間滞在のお願いをせざるを得ない状況であった。その中で下記の取り組みを行った。

1. おうちでよみきかせ

従来から参加者の多かった赤ちゃんの絵本よみきかせを長らく中止していることから、代替手段として、「おうちでよみきかせ」と題したブックフェアを7月16日から行った。読み聞かせボランティアグループの協力を得て、過去の記録から赤ちゃん向け絵本を選定し、自宅で保護者が赤ちゃんに読み聞かせをしてもらえる資料を展示した。当初はよみきかせ再開までの予定であったが、時間のない利用者がまとめて借りて帰るケースが多く、手軽に選ぶことができると好評で、行事を再開した11月以降も継続している。利用の増加とともに展示冊数も増えている。外出の機会も減り、自宅でよみきかせをするきっかけになった。

展示冊数	7・8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	221冊	165冊	131冊	129冊	151冊	199冊	160冊	147冊

2. 学年別によるおすすめ資料の展示

滞在時間の制限がかかったまま夏休みを迎えることになり、例年のように子どもたちにじっくり本を選んでもらえる時間がなかった。その中で読書感想文用資料をはじめ夏休みに読んでもらいたい資料をあらかじめ低、中、高学年、中学生向けに選別し展示した。これにより、資料を選ぶ時間が短縮され、子どもたち自ら資料を選ぶことにつながったと思われる。期間は7月1日～8月31日で、展示冊数は低学年約200冊、中学年200冊、高学年80冊、中学生60冊程度。ここでも年齢が上がるたびに利用数が減るという課題は残った。

以上の2例のように図書館の運営に制限がある中、工夫を凝らした資料提供方法を今後も模索していく必要がある。

地域資料については北区関連資料コーナーを以前より設置しており、今年度も収集、保存に努めた。北区関連資料の今年度受入は13冊。堺歴史文化市民講座「古代からのロマンの地 ふるさと北八下の昔」は昨年度、コロナの感染拡大の影響を受けて中止となった。今年度も2度延期することとなったが、参加を希望する声も寄せられ、3月20日に実施することができた。参加者は25名。(アンケート：とてもよかった 20 よかった 3 ふつう 1)

また、昨年度実施できなかった読み聞かせボランティア養成講座を2月に開催した。5名定員で5名受講。全員が今後、図書館の読み聞かせグループへの加入を希望している。

図書館協議会委員の評価
● 「しらべるコーナー」の開設は、良い取組みだと思う。ICTが進み「調べ学習もインターネットで」という風潮はあるが、本や資料を見て色々なことに興味をもってもらう習慣は忘れてはいけない。子ども司書養成講座との連携も継続して進めてもらいたい。 ● 非来館サービスとして興味深い取組をたくさん実施していただいた。非来館の方が多数の参加が期待できるという取組と、来館で本物に触れて実施したい取組とを検証し、より充実したサービスとなることを期待します。 ● 「子育て支援情報コーナー」の利用が進んでいる。SNSでの情報収集に偏りがちな子育て世代に普及していることは意義があると思う。これを契機に来館の良さをアピールできればと思う。 ● 利用者が来館せずとも参加できる事業は裾野を広げる活動で意義深いので、さらなるアイデアに期待したい。 ● 子育て支援情報コーナーの充実で、他区域館と比較して2倍以上というのはすごい。区役所部局との提携などが効を奏しているのではないか。「子どもといっしょに、レッツゴー！図書館」の呼びかけがとてもいい。 ● 子ども司書養成講座を学校とも連携して実施されたことは良かったと思う。講座限りの活動ではなく、子ども司書修了者がこの後も継続して図書館や、地域、学校等で活躍できるような仕組みができると良い。 ● 子育て支援情報コーナーのブックフェアを評価する。

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

令和3年度 美原区図書館の取組み状況

定量的指標	令和2年度	令和3年度	前年度比
貸出点数	242,959 点	252,347 点	103.9 %
区民千人当たり	6,468 点	6,814 点	105.3 %
予約点数	11,305 点	10,819 点	95.7 %
区民千人当たり	301 点	292 点	97.1 %
レファレンス受付件数	5,068 件	5,138 件	101.4 %
区民千人当たり	135 件	139 件	102.8 %
来館者数	88,094 人	92,444 人	104.9 %
区民千人当たり	2,345 人	2,496 人	106.4 %

※美原区人口 37,036 人(令和4年4月1日推計)

令和2年度図書館サービス評価を踏まえた課題等

- ・地域の知の拠点・課題解決の場として、新規利用者の増加や利用するサービスの拡大に向けた効果的な情報発信
- ・新型コロナウイルス感染症対策や Web サービスの社会的な普及を踏まえた非来館型サービスの拡充
- ・来館者の満足度向上につながる蔵書構成や配架等の工夫

今年度の目標

- ・コア利用者であるシニア層はもちろん、昨年度統計で利用の減少が目立った子ども(0～14歳)も含めた利用促進を目的として、以下の目標に取り組みます。
- 1.幅広い年齢層の利用を促すため、区内の施設や学校園等との新たな連携取り組みを実施します。→【育む力・学ぶ力】
- 2.サービスの認知度の向上と、非来館型サービスの拡充のため、図書館 HP や Twitter での情報発信を強化します。前年度と比べ、情報発信を 20 件以上増やします。→【育む力・学ぶ力・創る力】
- 3.非来館型サービスの拡充のため、web 予約や電子図書館の利用促進を図ります→【学ぶ力】

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. 図書館事業や行事の広報などにおいて、連携先の新規開拓や異なるアプローチを図る	
サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	今まで図書館やそのサービスについて知らなかった人の図書館利用を促進する
内容	特定の年齢層など、対象に合わせた効果的な広報を実施する。 美原こども館との情報交換など、新たに区内施設・機関の連携を図る。
効果	来館者・利用者の増加
指標	来館者数・貸出冊数の対前年度比増加

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

実施結果	・今まで交流がなかった美原こども館4館に、館内や区役所で配布している毎月のイベントカレンダーや、子育て世代向けのPRちらしの配架依頼をおこなった。 ・市内の10代が作成したおすすめ本のPOPを募集し投票をおこなう「POP ふえすていばる」では、図書館ホームページでの特設ページの設置による発信のほか、募集や作品公開、投票、結果発表など随時Twitterで情報を発信した。 ・区役所別館で活動している適応指導教室ユアイルームに、美原図書館ティーンズエリアの情報誌「from ティーンズエリア」や堺市立図書館作成の中学生向けブックリスト「ページをめくれば」の配架依頼をおこなった。 ・美原図書館に新しく入った資料から市職員の仕事に役立つ本のリストを作成し、区役所管理職が出席する連絡会議の連絡網を利用して情報提供をおこなった。 ・当館が重点的に収集している農業関係資料について、利用促進のためのPRちらしを作成し、区内のJA3店舗に配架依頼をおこなった。					
効果検証	①妥当性	○	全市的に図書館利用が減少している中で、身近な課題解決の場としての存在をアピールすることは重要である。			
	②インパクト	○	図書館外のさまざまな場で図書館の情報に触れることができるよう、連携先の開拓に努めた。			
	③効率性	◎	広報や青少年サービスの担当者がHP作成やTwitter文案作成などの作業に慣れ、スムーズに情報発信ができるようになった。 連携先への配架依頼は、その殆どが既存の配布物を活用するため、非常に効率性が高い。新規に作成したものも、今後必要な個所だけを更新しながら継続的な利用が可能である。			
	④協働の視点	—				
評価	令和2年度・3年度ともに臨時休館期間があったことを踏まえ、利用統計を一日平均数値で比較した。					
		令和元年度	令和2年度	(対前年度比)	令和3年度	(対前年度比)
	来館者数	470.4	337.5	71.7%	355.6	105.4%
	貸出者数	221.4	195.2	88.2%	199.8	102.3%
	貸出点数	1,032.0	930.9	90.2%	970.6	104.3%
	と、いずれも増加している。					
	昨年度利用の減少が目立った子ども(0～14歳)においても、					
	令和元年度	令和2年度	(対前年度比)	令和3年度	(対前年度比)	
貸出者数	32.3	24.1	74.6%	25.7	106.8%	
貸出点数	200.3	168.8	84.3%	182.0	107.8%	
とわずかではあるが増加傾向にある。						

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

	また、ティーンズエリアのターゲットである 10 代(10 歳～19 歳)では					
		令和元年度	令和 2 年度	(対前年度比)	令和 3 年度	(対前年度比)
	貸出者数	18.9	14.5	76.5%	16.0	110.9%
	貸出点数	103.4	89.1	86.1%	96.5	108.3%
	と、前年度に比べ 10%程度増加している。					
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)					
課題、改善提案等	SNS などツールの流行の移り変わりが激しいティーンズへの情報発信は、何が効果的なのか見極めが難しい側面があるが、学校等ティーンズのいる場との連携や Web・紙の両媒体の活用で図書館の情報に触れる機会を充実させる。 連携を始めたばかりの取組もあり、結果が出るのはまだ先になると思われる。 ティーンズのみならず、3 年度において利用が伸びなかった 20～30 歳代など幅広い層に認知してもらえるよう、取組を続けながら新たな連携先・連携方法も探していく。					

2. 図書館 HP や Twitter での情報発信を強化する	
サービスの具体的な方向性	②くらしに身近なテーマを図書館で調べる・相談できるようにします。
目的	サービスの認知度の向上と、非来館型サービスの拡充
内容	事業や行事の告知に加え、ブックフェア関連ブックリストや、行事報告を Web 上で公開する
効果	来館者の増加、効率的・効果的な図書館サービスの情報提供
指標	図書館 HP や Twitter の掲載数 来館者数、発信した情報や行事に関する問合せ数
実施結果	・図書館行事再開時、前日または当日に Twitter で情報発信をした。その後も、毎月の行事予定を HP で公開している。 ・SDG's ブックフェアを1か月1テーマで順次実施し、テーマの解説を兼ねて作成したブックリストを図書館 HP でも公開している。 ・SDG's ブックフェア以外のブックフェアも展示替えのたびに Twitter で写真を掲載。 ・地域の歴史理解を深めるために作成した冊子「黒姫山古墳のひみつ」「河内鋳物師のひみつ」「伊東静雄さんを知る」を館内で配布するとともに図書館 HP でも公開。 ・上記の取組みも含め、今年度の HP への掲載件数 24 件、Twitter の掲載件数 50 件と、昨年度の HP 7 件、Twitter 12 件から大きく増加させた。 ・POP ふえすていばるにおいて、図書館 HP に特設ページを作成し、POP の応募や投票をメールでも受付けた。応募作品やおすすめ本リストを HP で公開した。 ・図書館まつりやリサイクルフェア等、美原図書館独自の行事についても事前申込み制としたため、Twitter で情報発信をおこない、普段美原図書館を利用しない人にも情報が届くようにした。

Ⅳ 令和3年度 各図書館の取組み状況

効果検証	①妥当性	◎	非来館型サービスはコロナ禍の図書館において不可欠のサービスである。また、来館者以外にもサービスをアピールすることにより直接の利用促進にもつながる。
	②インパクト	○	POP フェスティバルは募集、投票、発表の前後に繰り返し Twitter で告知し、当該 HP への誘導をした。
	③効率性	◎	来館しなくても情報を得たりサービスを受けたりすることができることは利用者の効率性向上につながる。また図書館も効率的に幅広い対象に向けて広報ができる。
	④協働の視点	—	
評価	POP ふえすていばるの応募件数 231 点中 54 点、投票 109 件中 43 件がメールによる受付。例年学校でとりまとめて応募していた高校が休校中で期限までに提出できず、急遽生徒の POP を各自で撮影して図書館にメール送信してもらった。メールで応募というシステムがあったことにより不測の事態に対応できた。 リサイクルフェアの参加者 125 人のうち 47 人が美原区外在住だった。リサイクルフェアの広報は区広報のみであったため、Web での情報発信に一定の効果があったと思われる。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	毎月のブックフェアの情報発信など、Twitter の原稿作成は各職員が慣れてルーティンワークとしてできるようになってきたが、HP の作成はできる職員に限られているのが現状である。図書館 HP のリニューアルを機に、今より多くの職員が作成できるようにしたい。図書館まつりやリサイクルフェア等では感染対策に注力したこともあり、参加者に「何を見て来たのか」を聞く機会がなかった。シールを貼ってもらうなど、双方に負担の少ない方法で広報の有効性を調査する機会を作る必要がある。		

3. Web 予約や電子図書館の利用促進			
サービスの具体的方向性		⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。	
目的	アクセス環境はあるが利用していない層(主にシニア)に向け、利用方法を知ってもらう		
内容	少人数対象の利用講座の開催と館内での資料の配布(併用)		
効果	Web 予約や電子図書館の利用拡大、コロナ禍で外出を控えている利用者の利便性向上		
指標	(講座実施の場合)参加人数 Web 予約件数、電子図書館利用件数		
実施結果	・緊急事態宣言発出による臨時休館中、電子図書館の利用促進のために中央図書館で作成した冊子「つかってみよう電子書籍」を図書館シャッターに設置した。現在も図書館事業のチラシコーナーに設置している。 ・インターネット予約利用法の冊子「やってみよう Web 予約」を作成、同様に設置をはじめた。		
効果検証	①妥当性	○	サービスを知らない、使ったことのない層に身近なものとしてもらい、利用を広げることは重要である。

IV 令和3年度 各図書館の取組み状況

	②インパクト	○	来館してすぐに見える場所、返却カウンターの隣に他の事業チラシとともに設置した。Web 媒体より活字資料という層に馴染みやすい図解入りの冊子にしている。
	③効率性	◎	利用者自身で予約できることにより、職員を介する必要がなくなり、双方にとって効率化が見込まれる。 冊子は一度作ると内容を更新しながら利用が可能であり、講座のテキストも兼用することができる。 利用者登録時に仮パスワードを作成した人に渡すことで、カウンターでの詳細な説明も省くことができる。
	④協働の視点	×	将来的に講座を実施する際には、サポート役としてボランティアの協力も得たい
評価	「つかってみよう電子書籍」は休館中用意した 50 部がほとんどなくなった。開館後も現在までに 40 部ほどが持ち帰られているが、市全体の電子図書館の利用は減少しており、影響を与えるには至っていない。 「やってみよう Web 予約」は 2 月から設置を始めたばかりであり、まだ効果が出る段階ではないが、新規登録の際の説明や、ブックスタート等館外での啓発事業の際に活用しており、35 部が配布済である。渡した利用者には好評を得ている。		
今後の方向性	拡充 / 継続 / 見直し (○をつける)		
課題、改善提案等	中高年の利用者もスマートフォンを持っていることが多く、電子図書館やインターネット予約の潜在的利用者と考えられる。また、文字の拡大や音声読み上げ機能もある電子書籍は利用方法を知れば高齢者が便利に使えるツールである。こういった利点を鑑み、配布している冊子をテキストにした少人数の講座を予定していたが、感染拡大のため実施できていない。今後開催が可能になった場合に備え、どの職員でも講師ができるよう講座の進め方をマニュアル化して準備しておく。		

取組みの様子	
1. 図書館事業や行事の広報などにおいて、携先の新規開拓や異なるアプローチを図る	2. 図書館 HP や Twitter での情報発信を連携強化する
	
〈連携先に配布したチラシ〉	〈ベストPOP 発表の HP〉

3. Web 予約や電子図書館の利用促進

*ティーンズエリアの充実



〈電子書籍・Web 予約利用冊子〉



〈ティーンズエリアのブックフェア〉

令和3年度の取組み総括

1. 館内の環境整備として、書架配列や見出し、表示の見直しを行いました。
一般書…単行本と文庫本が別のところにあった全集コーナーを統合し見出しや別置案内を付けたところ、前年度まで年間貸出回数 0～1 回の資料が 3～4 回に貸し出されるなど、利用が増加しています。そのほかコーナーの見直しや並びが途切れていた個所の適正化を図りました。
児童書…十進分類から探しやすくするため書架の上に見出しを設置したほか、ちしきえほんに要望のあった「ずかん」分類を作成しました。また乳幼児健診時に配布しているブックリスト掲載の絵本やトイレトレーニングなど乳幼児の生活に関する絵本を子育て支援コーナーに設け、より利用者ニーズに合わせた書架づくりを行いました。
ティーンズエリア…10 代に「読んでほしい資料」と「人気のある資料」のバランスを考慮した書架づくりを意識し、部活動にも役立つ「スポーツコーナー」やティーンズを取り巻く人権問題を広く扱った「じんけんエリア」を新たに設置、ブックリストの作成や関連ブックフェアも始めました。
2. 設備面での環境整備にも注力し、新型コロナウイルス感染症対策のための座席の配置変更やパーティション設置、掲示物更新をはじめ、図書館からのお知らせボードやカウンターの荷物置台なども設置しました。
3. 農業人口の多い地域特性に合わせ、農業や園芸の少し専門的な資料を意識的に収集しています。
またシニア層の利便性を考慮して、昭和のスタンダードな文芸作品(三浦綾子、山本周五郎、遠藤周作など)を、活字が大きく軽い本に更新しました。
4. 昨年度実施の町立図書館時代の状態の良い書庫資料の活用は、通常のブックフェアに混ぜるのではなく「お蔵出しブックフェア」と題したミニブックフェアや物故作家の追悼フェアで実施しました。
書庫資料のみのブックフェアは 9 回実施し 39.7%、書庫資料を中心とした追悼フェアは 15 回実施し 47.4%の展示資料が貸出されました。

図書館協議会委員の評価
● 幅広い年齢層の利用を促すため、区内の施設や学校園との新たな連携の取り組みを評価する。 ● ティーンズエリアを、これからも充実させてほしいです。 ● 昨年度実施の書庫本の活用はとても面白い企画だと思う。 ● SDGsのブックフェアを twitter で見たが、とても興味のある企画だった。 ● Twitter の情報発信は一定の効果があったと評価するので、負担なく持続できるよう取り組んでいただきたい。 ● 地域の様々な団体との連携を進められたことは良かった。一朝一夕に関係性ができるものではないので、地道に継続しながら、連携事業等へ発展できると良いと思う。 ● 「美原をしらべよう」の三つの冊子は素晴らしい。子どもたちが地域のことを調べるのに、子どもにもわかりやすく書かれた地域資料が少ないと思うので、他の分館にも広まると良いと思います。職員にノウハウを伝えてほしい。今回ホームページでも公開されたので、ぜひ学校でも活用されるようPRしていただきたい。 ● 活字が大きく軽い本、地域性を尊重したとてもよい取り組みだとおもいました。

V 令和3年度の総評

- 基本的には、水準を維持しており、日常的な努力の賜物と感じます。願わくば子どもを対象とした分野、市民との共同分野を、より注力してくださるよう願います。
- 堺市の図書館は、専門的な司書としての自覚があり、様々な情報提供やサービスを実施しているが、定例化しているように感じる。堺市の図書館がここの一番に力を入れているサービスや強み、インパクト、PR するとすれば何ですか。このコロナ禍でどの図書館も同じ課題かと思うが十分な資料提供が難しい。また、資料・情報を活用し、多様な人々が出会い、交流して、新しい価値を生み出すことが難しくなっている状況もある。コロナ禍では、対面やスケジュール通りの企画も難しくなっており、市民も疲弊しているようにも感じる。ICT や民間企業とのコラボなど、図書館からアプローチや大きな企画が欲しい。そして、図書館から市民や街を活気づけて欲しいと感じる。堺市の図書館はそれが出来ると期待している。
- 昨年の「Osaka Free Wi-Fi」や図書館郵送サービス、電子書籍の提供や全体的に広報が十分ではないように思う。広報について、図書館の評価はどうか。今後、広報のあり方の検討や集中的に広報ができるような組織体制も重要かと思いました。
- ここ2年(コロナ禍では3年目)、家で過ごす方が多くなったと思う。その中で、1年目は「家での過ごし方への戸惑い」や「コロナ感染の情報ニーズ」、「読書したいという需要」があったかと思う。そういう時こそ、図書館が市民に寄り添い・常に情報を提供している存在でなければならないと思う。そこで堺市の図書館の情報提供やサービスは、どうだったのかこの時点で図書館自身が評価し、今後の情報提供に活かしていくことが重要ではないかと思う。
- 新型コロナの感染対応が長期化する中で、以前から進められてきた ICT 活用とともに図書館の在り方は大きな転換期を迎えている。各館とも非来館サービスとしての電子図書の拡張や SNS を活用した情報発信など創意工夫が見られる。
- そんな中でもやはり「不易流行」が大切で、スマホやインターネットを使用できない子どもや高齢者への配慮や、本の背表紙やタイトルから生まれる未知の世界との出会いなど、今までの図書館が担ってきた役割も忘れることなく、時代の最先端もつかんでほしい。
- 読書チャレンジの取組や学校図書館への訪問や選書支援など、学校図書館との連携も進めてもらっている。子どもたちにとって学校図書館や市立図書館が居心地の良い場所であるように、今後も色々な形で連携・協力していきたいと考える。
- 図書館は、市民の知る権利を保障し、資料の収集や保存と活用、施設を提供することを任務としていると思います。そのための図書館評価は、市民の要望や潜在的なニーズ、社会・地域の課題を的確につかんで行う必要があるでしょう。「堺市立図書館サービス評価」を、より市民の声や感覚をいかしたものにするために、日常的な調査や要求の反映のための開かれた図書館運営、市民との共同の活動やシステム作りが必要だと思います。調査については、全市民的な図書館活用の実際と利用者の要求や意見、利用していない市民の理由や要求、意見をしっかり反映する必要があると思います。
- 図書館のゆたかな運営には、専門的な見識と力量をもつ司書が重要な役割を果たすと共に、市民との連携が不可欠です。地域住民の声を届け、様々な経験やスキルを持つ市民ボランティアの協力の輪の拡がりによりゆたかな図書館づくりにつながると考えます。
- 図書館はひとりひとりの知的要求や生活課題に応えとと共に、地域理解や自治の力を育み、市民とまちが元気になるような力も持っていると思います。
- デジタル・ネットワーク社会の進行、コロナ禍による社会の変化など、とりわけ子どもたちの健全な育ちのために、自然・生活・社会体験と共に読書や調べ活動の充実が求められています。学校教育部と連携し、学校図書館の抜本的な充実支援をすすめる必要があります。

- 指定管理者運営では、公共図書館のこうした役割や理想の追及はできないでしょう。堺市の図書館が教育委員会直轄の事業として、今後も発展させていきたいです。
- 市民に開かれた図書館運営へ、図書館への市民の期待や願いを反映するシステムが要るのではないか。例えば、職員をわずらわせずに古本交換市をするのに場所を提供してほしいなどという声を届け、検討する場などがあるのでしょうか。資料の保存や期待される図書館活動の充実のために中央図書館の建てかえ問題は差し迫った課題になっていると思われます。幅広い専門家の見識や市民の声を反映する民主的な手続き、ロードマップを示すべきだと思います。差し迫ってからのパブリックコメントだけで市民の声を反映することはできません。
- 堺市の図書館広報紙のタイトル「ゆづりは」を、意義あるものとして子どもたちにアピールしていただきたい。河井醉茗の短詩だけでなく、長詩もきちんと紹介してほしいし、中央図書館前庭の碑の前にゆづりはの木を育てるべきです。盛り土の工夫など専門家に相談してぜひやってほしい。
- この文書も含め、報告書等は西暦併記にかえる必要があるのではないか。時間的な経過や比較検討の際に、年号だけでは不便でわかりにくい。
- 令和3年度もコロナ禍が続き、目標に向けた取り組み内容として予定していたサービスが実施できない状況が各区で生じたが、代替手段を考え、工夫をしながら実施した図書館も見られた。職員間で情報共有を行い、職員一人一人が主体的に考えて柔軟に行動することができるような風土が醸成されるとよいと考える。
- コロナ禍でデジタル化への取り組みが急速に求められてきたが、堺市は先駆けて取り組んできた経緯もあり、令和3年度の取り組みでもノウハウの蓄積が進んでいる。今後もトライアンドエラーで積極的に取り組み、研究しながら市民の役に立つ仕組みを構築し、その成果を全国の図書館等へも提供してほしい。
- 図書館カウンター堺東の設置や、西区図書館の新しいスペースの活用など、新たな取り組みを開始し、市民の利便性の向上や、場としての図書館機能の強化につながった。今後の発展を期待したい。
- 図書郵送サービスのモデル実施は、広報の見直し及び課題の整理。
- 青少年の図書館利用促進・読書振興のため、「ティーンズコーナー」を一般閲覧室に新設は評価。しかし広報等が課題。
- すべてに共通することであるが、前書き、サービスの具体的方向性、取り組みの関係性が読み取れない。なぜこの取り組みをしたのか、その狙いがわからない。たとえば【育む力】の「司書の専門性」はサービスの具体的方向性は①～③のすべてに該当すると思っているが、②だけと関係する？ 広報活動がサービスの具体的方向性のどれと関係してくるのか？ 特に【学力】は子ども・青少年のことしかしていないように読み取れる。前書きにもっと文章を書いてもらえると読み取れ、また全体的に文章を加筆しないとここだけ読む人は理解しにくい。
- コロナ禍によって活動が制限された年度であったが、ブックフェアや広報物発行回数を増やしたり、イベントや展示などで市民に情報提供できたことは良かった。広報やホームページに加えて Twitter でも情報提供していることも評価できます。
- 各図書館の設置場所により図書館が全ての市民に身近な場であることが難しい現状ではあるが、与えられたなかで職員のみなさんがより良い図書館をめざしていることがわかりました。
- 夏になると気になることですが、環境面で、図書館が暑すぎるという点です(美原図書館)。ゆっくりと本を選んでいただけなのに、マスクをつけている為、息苦しくなります。その事を知っている子どもたちは行きたがりません。図書館で働いている方も、首にタオルを巻き、しんどそうに見えます。換気の問題で空調がききにくいのはわかりますが、もう少し環境面を考えて欲しい。

V 令和3年度の総評

- いつも新しく買った本を確認しますが、読んでみたいと思う本が本当にありません。専門書や、かた苦しい本が目につきます。もう少し庶民の手に取りやすい本も入れて欲しいです。料理の本等も、いつも変わりばえしない昔の本ばかりでがっかりします。
- 個人的には具体的な数値設定をし目標にむかってよりよい運営をおこなっている成果はサービス評価書で確認できました。引き続き目標値を達成するように業務に邁進してほしいとおもいます。また、新たな取り組みにも固定概念や枠組みを突破する姿勢で今後も挑んでいただきたくおもいます。